

板 木

群馬県へき地教育研究資料第65集

平成29年3月

群馬県教育委員会
群馬県へき地教育研究連盟
群馬県へき地教育振興会

板 木

群馬県へき地教育研究資料第65集

序



へき地教育研究資料「板木」の歴史は古く、へき地教育連盟が発足した昭和27年から発刊が始まり、今年度で第65集となりました。

へき地に学ぶ子どもたちのシンボルであった板木（始業などの時刻を知らせるためにたたく板）と題するこの資料は、群馬県のへき地教育の営みの結晶であり、へき地教育を語る重要な資料であります。改めて、へき地教育の振興に御尽力いただきました多くの方々の御努力に対し、心から敬意と感謝の意を表します。

群馬県では、本年度より第15次群馬県総合計画「はばたけ群馬プランⅡ」において、「群馬の未来を担う子ども・若者の育成」を政策の第一に挙げ、郷土の誇りと愛着の育成、信頼される魅力ある学校づくり、多様な連携による人づくりなどを進めているところです。

全国的に広がる少子化の潮流の中、学校の統廃合等により、年々、へき地校・複式校は減少の傾向にあります。そのような中、県内のへき地学校では、地域との密接なつながりを生かした特色ある教育活動を展開するとともに、小規模校ならではの特性を生かした、個に応じた指導の工夫・改善などにも努めていただいております。

今年度の県へき地教育研究大会は、沼田市を会場に、「ふるさとで心豊かに学び、新しい時代を切り拓く子どもの育成」をテーマに行われました。班別研究協議では、「小規模校のよさを生かした積極的な学校経営の推進」「ふるさとを愛し、豊かな人間性をもった生徒の育成」が紹介されました。授業公開では、確かな学力の育成を目指した授業や地域の人材を生かした授業等が提案されました。

これらの教育実践は、へき地校のみならず、すべての学校に多くの示唆を与えてくれるものです。今後もこれまでの実践の成果を踏まえつつ、へき地校ならではのよさを生かした教育を、なお一層推進していただきたいと思います。

へき地教育の振興につきましては、昭和29年の「へき地教育振興法」の制定以来、さまざまな施策を実施してまいりました。今年度も、へき地教育振興会への補助、へき地教育センター運営費及びへき地学校巡回図書費の補助、県へき地教育研究大会の開催など多くの施策を推進しております。また、複式学級を有する学校に特配教諭や非常勤講師を配置することにより、多くの教科で学年ごとの授業が行われております。

このようにへき地教育に関わる皆様の御尽力により、着実にへき地教育の充実が図られており、今後さらにへき地教育が発展するよう、関係市町村教育委員会、県へき地教育振興会、県へき地教育研究連盟と連携して、一層努力してまいりたいと思います。

結びに、へき地教育研究資料「板木」第65集の刊行に御尽力された県へき地教育振興会、県へき地教育研究連盟の関係各位に対し敬意を表しますとともに、各教育機関において「板木」が十分活用されますことをご期待申し上げて序といたします。

平成29年3月

群馬県教育委員会

教育長 笠原 寛

「板木」第65集の刊行に寄せて



群馬県へき地教育振興会は、昭和29年「へき地教育振興法」の施行に伴い、本県へき地教育の諸条件の整備・充実を図ることを期して設立されました。そして、この目標を達成すべく、群馬県教育委員会、関係市町村、市町村教育委員会及び群馬県へき地教育研究連盟とともに、へき地教育に関わる種々の事業に取り組んでまいりました。この間、県当局をはじめ、関係各位の御尽力によって、複式学級の解消などへき地学校における教育条件の整備・充実に向けた取組が着実になされ、大きな成果を挙げてきております。これらは、へき地教育に献身的に取り組まれてきた先生方や、地域において様々な御支援をくださっている多くの方々の御尽力の賜であると心より感謝申し上げます。

本県でも少子化や人口減少に伴う児童生徒数の減少により学校の統廃合が進んでおり、本年度のへき地指定校は昨年度よりも4校減の35校となりました。へき地校に通う児童生徒の数も減少の傾向にあります。しかしながら、へき地校に通う児童生徒を見ると、心身共に健やかで、地域をよく知り、地域を好きになる子が増えているように感じます。これは、豊かな自然など地域の環境を生かした体験活動や、児童生徒一人一人の個性や能力を生かしたきめ細やかな教育を推進していただいているおかげだと考えております。

情報化やグローバル化など、子どもたちの置かれている環境は、大きく変化しています。変化の激しい、先を見通すことが難しい時代を生き抜いていく力を身に付けさせるため、長年取り組んできた地域に根ざした特色ある教育活動の成果を継続・発展させるとともに、今日的な教育課題にも果敢に取り組むことで、児童生徒のたくましく生きる力を育んでいってほしいと願っています。

このたび、へき地教育研究連盟の皆様方が中心となって、本県へき地学校で行われている特色ある教育実践等をまとめた「板木」第65集が刊行されますことは、本県のへき地教育の現状と課題を明確にできるとともに、今後のへき地教育の振興を一層図ることに役立つたいへん意義深いものと考えます。関係各位におかれましては、へき地教育に関する研究や実践をまとめたこの「板木」を十分御活用いただき、群馬県のへき地教育のさらなる発展・充実のために御尽力くださいますよう、心よりお願い申し上げます。

最後に、平素よりへき地教育の振興に御協力いただいております県当局をはじめ、県教育委員会、関係市町村、市町村教育委員会及び各地域の皆様へ、厚く御礼申し上げますとともに、一層の御指導と御協力をお願い申し上げます。刊行に寄せての挨拶といたします。

平成29年3月

群馬県へき地教育振興会

会 長 星野 已喜雄

「板木」第65集の発刊にあたって

平素より関係の皆様にはへき地教育並びに群馬県へき地教育研究連盟の活動に対しましてご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年度も群馬県へき地教育研究資料「板木」が第65集として発刊の運びとなりました。「板木」は、群馬県へき地教育の貴重な資料として長年活用されてきています。これまで「板木」の発刊に携わってこられた多くの皆様のご尽力に対しまして心から敬意を表します。

さて、全国へき地教育研究連盟では、現在、研究主題として「ふるさとで心豊かに学び、新しい時代を切り拓く子どもの育成」を掲げ、平成26年度より第8次長期5か年研究推進計画を進めています。その1年目には第63回全国へき地教育研究大会群馬大会が盛会の裡に開催されました。阿蘇山の噴火等もあり開催が心配された昨年度の熊本大会を経て、今年度は本州最北端の青森で大会が開かれました。本刊の後半に、その第65回全国へき地教育研究大会の概要報告を掲載しました。

この全へき連の研究主題は、「全国は一つ」のスローガンの下、群馬県へき地教育研究連盟でも同様に掲げて取り組んでいるものです。本刊の前半に県内の取組を載せています。また、平成27年度末に閉校になりました沼田市立平川小学校、片品村立片品南小学校、片品村立武尊根小学校の3校の歴史を本刊の冒頭に綴り、県へき連として歴史に刻む役割を担います。

全国に目を向けてみると、へき地指定の有無を問わずに、例えば「〇〇へき地・小規模・複式教育研究連盟」のような名前で、加盟校の枠を広げた研究組織も多く存在します。実際に、各校で取り組む研究内容は共通していることから、十分に存在意義のある組織になっているようです。本県にも、へき地指定のない小規模校は多数あります。本へき地教育研究連盟も、組織の在り方や研究会等の開催方法について、それらの小規模校を巻き込むことも含め、進化・発展する方向での具体的な取組を進める必要があります。現実として、組織の力は重要です。教育実践の研究推進を最重視しながら、研究や実践を支える活動を実行できる組織としての基盤を固めることにも取り組んでいかななくてはなりません。

また、「板木」についても時代に応じた進化を模索すべきだと思います。例えば、「板木」に掲載する実践について、その中で使用している資料等にアクセスできる仕組みを構築することが考えられます。実践を発表する学校が自校のホームページ上に「板木」のページを作成して、便利な資料等を改編・活用可能な形式のファイルとして公開・提供することは、すぐにでもできそうです。

現状や時代の流れを意識しつつ、群馬県へき地教育研究連盟としては、全国と手を携えながら、総力を挙げて、「ふるさとで心豊かに学び、新しい時代を切り拓く子どもの育成」に向けた研究推進と教育実践とを進めていきたいと考えています。今後とも皆様方のご指導・ご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

結びになりますが、「板木」第65集発刊にあたり執筆や編集に携わっていただきました先生方に御礼を申し上げますとともに、日頃よりご指導とご支援をいただいております群馬県教育委員会並びに群馬県へき地教育振興会をはじめ、関係の皆様には深く感謝申し上げます、発刊にあたってのあいさつとさせていただきます。

平成29年3月

群馬県へき地教育研究連盟

理事長 **黒澤 守**

も く じ

序 文

序 -----	群馬県教育委員会教育長	笠原 寛
「板木」第65集の刊行に寄せて -----	群馬県へき地教育振興会長	星野 巳喜雄
「板木」第65集の発刊にあたって -----	群馬県へき地教育研究連盟理事長	黒澤 守

第 1 部 へき地教育の振興

I 変貌するへき地の学校

沼田市立平川小学校の閉校 -----		1
	沼田市立平川小学校（前）校長	中野 敬造
片品村立片品南小学校の閉校 -----		2
	片品村立片品南小学校（前）校長	萩原 茂樹
片品村立武尊根小学校の閉校 -----		3
	片品村立武尊根小学校（前）校長	角田 明大

II へき地の学校経営

〈1〉小学校

英語教育の取組と伝統の継承 -----		4
	嬭恋村立西部小学校長	金子 健司

〈2〉中学校

小中併設校のよさを活かした小中連貫教育の推進 -----		6
	沼田市立多那小中学校長	小林 彦名

III 学習指導の改善に関する実践的な研究

自ら考え表現できる児童の育成 -----		8
～算数科における学習過程スタンダードを取り入れた少人数指導の工夫～		
	高崎市立宮沢小学校長	山田 久徳

IV へき地学校における生徒指導の実践

〈1〉小学校

「たくましく生きていく子」を育成する生徒指導 -----		10
	昭和村立大河原小学校長	荒木 富美子

〈2〉中学校

学校教育目標、生徒会スローガンの達成に向けた「積極的な生徒指導」の推進 -----		12
	上野村立上野中学校長	飯出 哲夫

第2部 へき地学校教員研修のあゆみ

I 平成28年度へき地学校教員研修の概要 ----- 14

群馬県へき地教育研究連盟研究部長
沼田市立利根中学校長 今井 浩

II 第65回群馬県へき地教育研究大会

〈1〉概要 ----- 15

群馬県へき地教育研究連盟研究部長
沼田市立利根中学校長 今井 浩

〈2〉提案要旨

《小学校班》

小規模校のよさを生かした積極的な学校経営の推進 ----- 16
～六合こども園、六合小学校、六合中学校の連携を通して～

中之条町立六合小学校長 山田 幾久

《中学校班》

ふるさとを愛し、豊かな人間性をもった生徒の育成 ----- 18
～主体的・協働的な体験活動を通して～

安中市立松井田北中学校長 畑 光代

〈3〉公開授業・授業研究会

① 小学校 第1学年(算数) ----- 20

沼田市立多那小学校教諭 高宮 昭子

② 小学校 第6学年(道徳) ----- 22

沼田市立多那小学校教諭 鷲頭 生治

③ 中学校 第1学年(理科) ----- 24

沼田市立多那中学校教諭 阿部 万里子

④ 中学校 第2学年(社会) ----- 26

沼田市立多那中学校教諭 細谷 龍男

III 第65回全国へき地教育研究大会(青森大会)

〈1〉概要報告 ----- 28

沼田市立利根中学校長 今井 浩

〈2〉分科会報告

A分科会 自分で考えて学習する生徒の育成を目指して ----- 29
～学ぶ意欲を高める学習指導の工夫～

群馬県教育委員会義務教育課指導主事 武川 光

B分科会 主体的に学び合う子どもの育成 ----- 30
～ゴールを明確にした学習過程の工夫を通して～

長野原町立応桑小学校長 埴田 栄一

C分科会	確かな学力を身に付けた生徒の育成 ----- 3 1 ～学び合い活動や異年齢集団による交流活動を通して～ 草津町立草津中学校長 中島 透
D分科会	主体的に表現する児童生徒の育成 ----- 3 2 ～思考・判断を基盤にした表現力の育成～ みなかみ町立藤原小中学校長 堀江 英也
E分科会	主体的に考え、学び合う児童の育成 ----- 3 3 ～一人一人に学ぶ喜び、分かる楽しさを実感させる授業づくりを通して～ 神流町立万場小学校長 黒澤 守
F分科会	基礎・基本を定着させ、さらに思考力を高めるための指導の研究 ----- 3 4 ～主体的に学び合う活動を通して～ 南牧村立南牧中学校長 飯塚 真琴
G分科会	主体的に学び考え、表現する児童の育成 ----- 3 5 ～自ら課題を見付け、進んで解決し、協働的に学び合う学習指導の研究～ 安中市立細野小学校長 本多 利幸

《資 料》

I	平成28年度へき地学校資料 ----- 3 6
II	平成28年度群馬県へき地教育振興会役員 ----- 3 9
III	平成28年度群馬県へき地教育研究連盟役員 ----- 4 0
IV	平成28年度群馬県へき地教育センター指導員 ----- 4 1
V	平成28年度へき地教育功労者 ----- 4 2
	あとがき ----- 4 4

第 1 部

へ き 地 教 育 の 振 興



群馬県へき地教育研究大会 開会式



群馬県へき地教育研究大会 研究協議
小学校班



群馬県へき地教育研究大会 研究協議
中学校班



群馬県へき地教育研究大会
授業検討会

I 変貌するへき地の学校

沼田市立平川小学校の閉校

沼田市立平川小学校（前）校長 中野 敬造

1 はじめに

沼田市の東、旧利根村にあって、片品村と隣接する地、平川。国道 120 号線を切り通しで折れ、坂を下っていくと思いがけず美しい光景が目の前に広がり、春であれば、芽吹いたばかりの木々の青、秋であれば色づいた山々。鎧橋から平川の上流を見ると青く澄んだ水が穏やかに流れて来る。そんなすばらしい環境に恵まれ、142 年という長い歴史をもつ平川小学校は、児童数の減少に伴い、平成 28 年 4 月 1 日、利根東小学校、利根西小学校と統合して利根小学校として出発することになった。



2 沿革の概要

明治 7 年に平川中組永福寺を仮校舎として開校し、昭和 37 年に利根村立東小学校から独立、利根村立平川小学校となった。そのときの児童数は 280 名であった。また、平川の奥に木を伐採し、足尾方面に材木を送るための平滝という集落があった。そこに平滝分校があり、昭和 39 年には 18 名の児童がいたが、その年の 10 月に廃校となった。現在、平滝には人は住んでおらず、自動車で行くことも困難である。

昭和 46 年には文部省から道徳教育の研究の指定を受け、翌年の研究発表会では、県内外より 280 名の参加があった。また、平成 3 年には同和教育実践推進校の発表会があり、90 名の参加があった。平川小学校が心の教育に重点を置いてきたことは、その後も継続している。

平成元年度に校舎を新築し、平成 8 年度には体育館を新築して現在に至っている。校舎はコンパクトだが、児童が使いやすいように工夫されている。体育館は大きく、地域の行事でも十分活用ができるようになっている。丁寧に使われ、手入れもよく行き届いており、新築当時のままでないかと思われるくらいきれいである。平川小学校を地域・保護者の方々が誇りをもって大切にしてきた様子がうかがえる。平成 16 年 2 月、沼田市と利根村・白沢村が合併し、沼田市立平川小学校となった。

平成 13 年度には、独立開校以来の複式学級編成となり、毎年少しずつ児童数が減少し、平成 27 年度には児童数はついに 41 名となった。新入生は 1 名。

少ない人数ではあるが、児童と教職員、地域が一体となり、米作り・野菜栽培・花植え・収穫を祝う会など特色ある教育活動を展開することができた。平成 25 年に群馬県教育委員会主催の第 2 回スクール・オブ・ザ・イヤーで優良賞をいただいた。

3 おわりに

少子高齢化は日本全体の大きな課題と言われて久しい。その少子高齢化は都市部から離れた周辺部から急激に始まっていた。人口減少による少子化の波は真っ先にへき地にやってきたのである。へき地教育が今大きく揺らいでいるように感じる。

学校がなくなるというのは、地域にとって大変なことである。ふるさとの将来を背負って立つのは子どもたちであり、その子どもたちを大切に育てていかなければならないと改めて実感する。

この統合により、利根町の子どもたちが切磋琢磨する中で、平川を、利根町を背負って立つ子どもたちが育っていくことを切に願っている。

片品村立片品南小学校の閉校

片品村立片品南小学校（前）校長 萩原 茂樹

1 はじめに

「ほたかのみねに わきいずる しらくもたかく あおぞらへ きぼうをむねに あつきちのまごころこめて はなとさく きたえのぼさん みとこころ」昭和 30 年 4 月 1 日、本校は片品小学校花咲分校から「片品南小学校」に独立しました。冒頭の歌は開校した年につくられた校歌です。時は流れ、平成 28 年 3 月末日、開校 60 年の節目の年に片品小学校に統合され、その任を全うしました。その間、1148 名の子弟が本校で学び巣立っていきました。

1 年生 46 名、2 年生 35 名、3 年生 25 名、4 年生 8 名、5 年生 20 名、6 年生 22 名、合計 156 名の児童が開校しました。4・5 年生が複式学級、教職員は藤井重太郎校長以下 8 名でした。

平成 27 年度の児童数は 1 年生から 6 年生まで合わせて 27 名です。時の趨勢、少子化を目の当たりにし、村当局も統合やむなしの判断を下しました。

2 学校の沿革

- 昭和 30 年. 4 片品南小学校として独立する
- 昭和 40 年. 8 千葉県明神小学校との交歓分宿始まる
- 昭和 44 年. 11 現在の体育館が完成する
- 昭和 45 年. 8 現在のプールが完成する
- 昭和 57 年. 5 現在の校舎が完成する
- 昭和 57 年. 10 にこにこ集会（お年寄りとの交流）始まる
- 昭和 59 年. 12 開校 30 周年記念式典が行われる
- 平成 2 年. 10 県同和教育実践推進地区発表会が行われる
- 平成 14 年. 1 群馬県 P T A 表彰を受ける
- 平成 20 年 児童数が 50 名を下回る
- 平成 27 年. 10 ぐんま T V 「みんなの時間」に出演する
- 平成 28 年. 3 閉校記念式典を実施する



(校舎全景)



(にこにこ集会)

3 おわりに

「忘れがたき故郷、思い出づる故郷、山は青き故郷 水は清き故郷」地域に愛され、地域と共に歩んだ南小学校はその役割を終えますが、花咲の人々の心の中に蒔かれた種は開花し、時には安らぎを、時には励ましを、そして希望を与え続けてくれると思います。

50 回を数える明神小学校との交歓会、親和会の方（27 名の写真絵）々や支援隊の皆さんにお世話になったにこにこ集会、

開校 30 周年記念で作成した花咲かるた、厳しい寒さの中で実施したスキー大会、等々。1148 名のみならず、花咲の人々の心の奥深くでいつまでもいつまでも輝き続けていくことと思います。

そして「朝日に映える 武尊山 仰ぐひとみも はればれと 元気いっぱい 声高く 仲良く きょうも うたいます ここよわれらの 学びや 明るい 南小学校」と歌うとき、まぶたにその姿が鮮明に浮かびます。



(スキー大会)





片品村立武尊根小学校の閉校

片品村立武尊根小学校（前）校長 角田 明大

1 はじめに

本校は、利根郡片品村にある4つの小学校のうちの1つでした。片品村は、群馬県北東部に位置し、国道120号線沿いにあり、西に武尊山、北に尾瀬ヶ原を有し、東は日光に抜ける金精峠とつながっています。農業や観光にも力を入れ、山村ではあるが活気のある地域であります。

本校は、西面に武尊山を望める高台にある小規模校であり、閉校時の児童数は11名で単学級1、複式学級3でありました。保護者や地域の協力を得て、特色ある豊かな教育活動を展開しながら心豊かな武尊根っ子の育成に努めてきました。

2 学校の沿革

明治 8 年	摺淵小学校として正福院に開校する
明治 13 年	新校舎を建築する
明治 17 年	利根第 6 小学校第 2 分校と改称する
明治 23 年	片品簡易科小学校と改称する 同年、東村に属していた幡谷が片品村に編入し、幡谷地区の学童は東村尋常小学校（平川）より本校へ転校する
明治 23 年	片品村各校が統合され、須賀川を本校とし、片品尋常小学校第 5 分校と改称する
明治 26 年	各分校が独立し、武尊根尋常小学校となり、校舎改築をする
明治 30 年	片品南高等小学校を併置する
明治 32 年	片品南(武尊根)と片品北(越本)の両高等小学校が合併、片品高等小学校となる
明治 41 年	片品尋常高等小学校武尊根分教場となる
大正 6 年	5 年生まで就学し、6 年生は鎌田の本校へ通学する
昭和 16 年	片品国民学校武尊根分校となる
昭和 22 年	片品小学校武尊根分校となる
昭和 31 年	新校舎が落成する
昭和 40 年	片品村立武尊根小学校となる
昭和 41 年	銚子市立明神小学校との交歓会が始まる
昭和 43 年	体育館が落成する
昭和 52 年	プールが完成する
平成 7 年	開校 30 周年記念行事を挙げる
平成 9 年	新体育館が落成する
平成 27 年	独立 50 周年記念式典を挙げる
	銚子市立明神小にて交歓会 50 周年記念行事が行われる
平成 28 年	閉校式を挙げる



3 おわりに

特色ある教育活動を行ってきた武尊根小学校は、少子化のため閉校することになりました。しかし、この学舎で学び巣立った卒業生 344 名は、各方面で活躍しています。卒業生や地域の方々、勤務した教職員の拠り所として赤い屋根の木造校舎「片品村立武尊根小学校」は、多くの方々の心の中に大切な思い出として末永く残ることと存じます。

II へき地の学校経営

〈1〉小学校

英語教育の取組と伝統の継承

嬭恋村立西部小学校長 金子 健司

1 はじめに

本校のある嬭恋村は群馬県の北西部に位置し、浅間山・湯の丸・吾妻山（四阿山）・白根山など標高 2,000m 級の山々に囲まれた高原地帯である。キャベツなど高原野菜の産地としても知られ、南北に広がるパノラマラインには広大なキャベツ畑が広がっている。冬季は村内にある 5 つのスキー場や温泉が人気で県内外から多くの観光客が来村している。

本校は平成 27 年 4 月に開校した。旧西小の跡地に新校舎を設立し、西小、田代小、干俣小の 3 校の子どもたちが登校している。全校児童数は 232 名で学級数は特別支援学級 2 含む 12 学級、教職員数 27 名（マイタウン等を含む）学校である。通学手段は田代小、干俣小地区の全児童と西小校区の約半数の 171 名（74 %）がスクールバスで登校し、徒歩通学の児童は 61 名である。



2 学校教育目標

思いやりの心を持ち、自ら学び、健康でたくましく、生き生きと輝く児童の育成

3 学校経営方針

- (1) 笑顔で生き生きと学校生活を送るための、安心・安全な学校づくり
- (2) 学校教育目標の達成に向けた、全教職員の組織的な取組
- (3) 地域から信頼される、開かれた学校づくり
- (4) 全教職員が職能成長を進める学校づくり

4 実践の概要

- (1) 自分の思いや考えを英語で表現できる児童の育成 —英語に親しみ、活用する授業の工夫を通して—（文部科学省「英語教育強化地域拠点事業」への取組）

嬭恋村では平成 26 年度から文部科学省の「英語教育強化地域拠点事業」の地域指定を受けたが、閉校の年であったために統一した 3 校の取組は行われていなかった。そのため、昨年が実質 1 年目の取組となった。本校の指導形態は各教室でなく特別教室（ABCルーム）で全校が授業を行っている。その際に各担任が抵抗感なくスムーズに英語、外国語活動の指導が行えるよう、昨年 2 学期までは本校の特配教員が T1 となり、担任、ALT、村コーディネーターの 4 名で常時授業を行うことができた。これにより、各担任も特配教員の授業の進め方を学ぶことができ、3 学期からの担任への T1 の移行がスムーズに行えた。

授業時数については、3～4 年生は、総合的な学習の時間を 1 時間カットし、外国語活動として週 1 回 45 分で実施した。5～6 年生は従来外国語活動の 1 時間と総合的な学習の時間を 1 時間カットし、週 2 回 45 分×2 で英語の授業を行った。

指定を受けた 1 年目の話を当時の担任に聞くと、各校が ALT 任せの外国語活動を 3 年～6 年で行った程度と答えが返ってきた。このような現状だからこそ、本校では基本は外国語活動と考え実践した。高学年では、教科「英語」につながる文字の書き写し等をどの程度入れても

大丈夫か等考えながら実践した。評価についても、基本は外国語活動なので観点での評価は考えず、「どういう力が身に付いた。〇〇と言う質問に対して、答えることができるようになった」等の文章記述で通知表や指導要録は評価している。

現在の4年生は、3年、4年としっかりと「外国語活動」を学習してきた学年なので、来年度からの5年生の英語の授業は、昨年、今年の5年生よりもレベルアップした内容で指導する必要がある。今後は評価を含めた内容の見直しも合わせて考えていきたい。

(2) 地域人材を生かした冬季のスケート授業の実施

嬭恋村から現在6名のオリンピック選手と2名のメダリストが誕生している。その中の5名がスピードスケートで、1名がボブスレーである。本校では冬季の体育授業で、スピードスケートの授業を嬭恋高校のスケートリンクで行っている。リンクへは村からバスを出してもらい2時間続きの授業で実施している。講師としてお世話になるのは、保護者を中心とした村のボランティア講師さん達で、オリンピックのメダリストを始め、全国優勝、全国入賞した経験者はずらっと並ぶコーチ陣はなんとも頼もしい。優秀な指導者から指導を受けられる子どもたちは幸せそうである。西部小学校からもオリンピック選手の誕生を期待したい。

(3) 県大会 26年連続優勝中の自転車部

昨年、入学式前に自転車部保護者会の役員数名が来校した。「伝統ある自転車部を存続して欲しい」との依頼だった。西部小の校庭や体育館で田代小のように練習することは無理かも知れないが、今までどおり田代小で練習するならば問題ない。今までのように教員がつきっきりで指導するのは厳しいが、できる範囲での協力はすると回答すると喜んでくれた。

昭和41年から始まった交通安全子供自転車群馬県大会は平成27年度が第50回大会で、この大会で田代小学校は第9回大会で初優勝、第12回大会～20回大会まで9連覇、第22回大会～23回大会まで2連覇、そして平成3年の第26回大会～平成28年度の第51回大会まで26年連続優勝を続けている。実技練習は今までどおり田代小学校の体育館と校庭で行い、学科練習はスクールバスを待つ時間を使って西部小学校で行っている。

25連覇を狙った昨年の県大会は6年1名、5年1名、4年2名で臨んだ。過去の大会はほぼ6年チームで臨み、時に5年が入る年もあったようだが、4年が2名も入る年はなく、統合の年に連覇が途切れてしまうのかと、県大会当日はひやひやしながら応援に行った。しかし、いざ競技が始まると、本校児童と他校児童の技能の差は一目瞭然だった。案の定、個人戦は1位～4位までを独占し、団体は25連覇を達成することができた。今年度は26連覇と記録を伸ばすことはできたが、全国では全く歯が立たなかった。昭和56年の全国大会で準優勝している自転車部も、平成5年大会で5位となった以降は入賞を逃している。

3年連続出場者が中心となる来年度のチームの県大会27連覇と全国入賞を期待したい。

5 おわりに

平成30年から「3・4年生の外国語活動」「5・6年生の英語」が新しい学習指導要領から導入されるが、現状で週28コマやっている4年生に29コマ目の外国語活動をどう入れるのか。国は週28コマが望ましいと言う方針を29コマと変えるのか。3・4年生で外国語活動をやっていない30年度の5年生に本当に英語をやらせるのか、今後の最終答申がどのように提示されるか注目している。いずれにしても我々は目の前にいる子どもたちの能力を少しでも伸ばせるよう努力するしかない。

また、伝統あるスピードスケートや自転車部の活動についても、子どもの能力を伸ばすという観点でいけば、今後も当然継続していく活動である。様々な課題はあるにせよ、「子どものために」を常に意識し、学校経営にあたっていきたい。

〈2〉中学校

小中併設校のよさを活かした小中連貫教育の推進

沼田市立多那小中学校長 小林 彦名

1 学校の概要

沼田市の南東に位置する多那地区は赤城山北西面丘陵地にある野菜作りが盛んな農村地にある。中でも「朝採りレタス」が有名で、朝方の暗いうちから収穫を始め、その日のうちに東京近郊など大消費地に大量出荷されている。

本校は昭和22年に開校された、小学生51名、中学生33名の小規模の小中併設校である。中学校長が小学校長を兼務し、小中にそれぞれ教頭を配置している。校舎・校庭・体育館等小中で共有し、運動会やマラソン大会等の行事は小中合同で実施している。

本年度小学校は、3、4年生が複式学級で、特別支援学級を含めて全6学級、中学校は全4学級である。児童生徒は明るく素直で思いやりがあり、落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っている。保護者や地域の方々は、地域の学校という意識が高く、地域コミュニティの中核的役割をもち、「多那校」と呼んで、様々な教育活動に大変協力的である。



2 学校教育目標

基本目標：(小) 知・徳・体の調和のとれた豊かな心を持ち、自ら考え、正しく判断し、行動できる児童を育成する。

(中) 高い知性、豊かな情操と徳性、たくましい意志と創造的な個性をもった心身ともに健康で、規律ある人間を育成する。

具体目標：(小) ○よく学ぶ子 (知) ○思いやりのある、やさしい子 (徳)

○元気で、たくましい子 (体)

(中) ○主体的に学び、創造性豊かな生徒 ○互いに高め合い、真の勇気のある生徒

○感謝と思いやりの心をもつ生徒 ○心身を鍛え、健康でたくましい生徒

3 学校経営の方針

- (1) 確かな学力の育成・・・授業で児童生徒を変えるための授業改善の推進
- (2) 豊かな人間性の育成・・・道徳の時間を中核とした道徳教育と凡事徹底による生活指導
- (3) 健康増進と体力の向上・・・学校保健や食育の推進と体育活動の充実
- (4) 組織マネジメントの充実・・・全職員参画のPDCAによる学校課題の解決
- (5) 家庭・地域との連携・協力・・・学校支援センターの機能の充実
- (6) 小中一貫教育の推進・・・児童生徒、地域の特性を踏まえた学びの連続性の推進

4 実践の概要

- (1) 小中連貫教育協議会の実施について

○小中学校職員を「国語部会」「算数・数学部会」「理科部会」「キャリア教育部会」の4部会に編成し、9年間を見通した教育の推進と授業公開を伴う授業実践を通して、学力向上を目指す。

- (2) 学校行事の共同実施について

○運動会やマラソン大会、市内小中学校音楽発表会等を合同開催することで、縦割りの団編成

や練習など、交流を通して、やさしい気遣いや思いやりの心を醸成するとともに、お互いの立場や役割を自覚した言動がとれる児童生徒の育成を目指す。

- 地震等災害時における児童生徒の引き渡し訓練を通して、保護者との連携を図るとともに、自分の命は自分で守る、困っている人間、弱い人間にも手を貸すといった自助・共助・公助の精神を養う。

(3) P T A 専門部との連携について

- P T A 専門部の読書班による「親子読書」において、親と子のふれ合いを深めるとともに、読解力や思考力、想像力を豊かにし、読書好きの子どもの育成につなげていく。
- P T A 健全班による「健全育成区民会議」の開催において、青少年育成コーディネーターによる情報モラルに関する講演会や、学校や地域からの夏休みに向けての情報提供や情報交換等を通し、保護者、地域住民への啓発活動を行う。
- P T A 講演会班による「地域への授業公開」において、授業公開、読書班主催の読み聞かせ会、英語スピーチコンテスト・少年の主張代表者による発表、音楽発表会、和太鼓鑑賞会等の開催により、本校の文化活動に対する理解と地域住民の情操の向上を目的とした活動を行う。
- P T A 映画班が中心となった「P T A 映画会」において、各小中学生向けの映画鑑賞を行い、問題提起や感動を共感、共有するとともに、児童生徒全員が鑑賞後に感想文を書き、「映画班だより」として、各家庭に配信している。



手九野太鼓鑑賞会

(4) 地域・家庭との連携について

- 沼田市の重点施策の一つである「沼田（多那）大好き、ふるさと学習」を推進するに当たり、「わかくさ交流会(小)」や「お年寄りとの交歓会(中)」による地域のお年寄りとの交流を通し、地域理解、学校理解を深め、地域に対する感謝や伝統を理解し、その継承者としての意識の向上を図る。



交流会での様子

(5) 校内の活動について

- 「小中合同生徒指導委員会・校内いじめ防止会議」の開催により、情報の共有、同時進行による指導、報告・連絡・相談・調整がスムーズに行われ、時間的なロスや意思の疎通等における齟齬をなくすことができる。また、「生徒会(中)・なかよし委員会(小)」の合同会議を発足し、生徒指導に関する共通の活動、課題への取組が可能となり、特に「沼田市SNSルール」を受けた「多那小中SNSルール」や「家庭におけるSNSルール」の作成、朝の「あいさつ運動」等、実態に即した実践的な活動を行う上で成果を上げている。
- スクールカウンセラーによる、小6生から中3生全員に対する個別面談の実施をはじめ、特別支援学級を含めた全学級への授業参観、全学年へのS S Tの実施、移行学級における「すくすく講話」、小中学生指導委員会への出席等を通し、専門的な立場からの指導・助言とともに、職員に対する小中を見通した相談や支援を得ることが可能となっている。

5 おわりに

本校は県内でも珍しい小中併設校として長い歴史を刻むとともに、保護者、地域住民の変わることのない温かい全面的なバックアップによって体を成している。閉鎖的であるが故の弊害はあるが、それをはるか凌駕する支え、期待にどのように応えていくかが最大の課題である。

小中連携には「なめらかな接続と適度な段差」が必要と言われるが、今後も本校ならではの長期的・短期的課題を児童生徒・家庭・地域目線にとらえ、併設校の強みを最大限に活かしながら、「地域の学校・多那校」の発展、子どもたちの成長を図っていきたいと考える。

Ⅲ 学習指導の改善に関する実践的な研究

自ら考え表現できる児童の育成

～算数科における学習過程スタンダード^{※1}を取り入れた少人数指導の工夫～

高崎市立宮沢小学校長 山田 久徳

1 学校の概要

本校は、榛名山南麓の標高 360 m の山間部に位置し、果樹や野菜の栽培、畜産が盛んな地域である。年々少子化が進み、本年度は全校児童数 46 名、PTA 会員数 30 名となった。3・4 学年が複式学級で、特別支援学級を含めて 5 学級である。児童は明るく素直で思いやりがあり、落ち着いた学校生活を送っている。保護者や地域の方々は学校に大変協力的である。

2 主題設定の理由

過年度の 3 年間、研究主題『自らの考えを言葉を用いて分かりやすく伝え合うことができる児童の育成』を掲げ、思考力を伸ばす言語活動の工夫に取り組んできた。その結果、児童は自分の考えと友達の考えを比較しながら聞いたり、理由も添えて考えを述べたりすることができるようになってきた。しかし、自力解決の場面で、粘り強く考えようとする意欲が乏しかったり、子ども同士で学び合うよりも教師の支援を求めようとしたりするなどの課題が残った。

また、学力検査や諸調査、日常の観察などから、基礎学力の定着の面で不十分な児童がいることや、小規模で支援がきめ細かくされているにもかかわらず学力差が大きい、といった課題も見られる。これらの課題の解決を目指して、標記の研究主題を設定し研究に取り組んだ。

3 実践の概要

(1) 研究の視点

- ① 自ら考え表現し、「確かな学力」を身に付けた児童像の明確化（以下略）
- ② 学習過程スタンダードを取り入れた授業改善
- ③ 生活習慣や学習習慣の定着を図る指導の工夫（以下略）

(2) 学習過程スタンダードを取り入れるねらい

次のア～エをねらいとして教師間で共通理解し授業に取り入れるとともに、小規模校である本校なりの支援を工夫した「宮沢小学学習過程スタンダード」（表 1）の作成に取り組んだ。

ア 問題解決的な学習スタイルを取り入れて、児童が主体の自ら学ぶ授業づくりを実践する。

イ 教科横断的な学習(どの教科にも共通する学び方)を通して、児童が学び方を学ぶ。

ウ 教師によって指導方法が違ったり、教科によって学習過程が多様化したり異なったりすることからくる児童の「学びにくさ」や「分かりにくさ」を解消する。

エ 学習過程をこれまでの導入・展開・終末等の 3～4 段階程度の過程から細分化することにより、授業のめあてを達成するための効果的な学習過程の工夫や時間配分を可能とする。

(3) 授業実践

○ 6 月下旬 5 年算数 単元「わり進みの計算とあまりのあるわり算」

○ 10 月下旬 3 年算数 単元「小数のたし算とひき算」（市教育委員会による計画訪問）

※計画訪問では、算数以外の教科でも各教師がスタンダードに沿った授業の進め方を模索した。

※5 月及び 2 月にも、全員が授業実践を行った。

表1 宮沢小学習過程スタンダード(抜粋、要約)

学習過程	児童の思考や意識	教師の支援
課題設定 ①めあての提示 ②問いをもつ ③問いの共有	「何だろう」 「不思議だな」 「知りたいな」 「やってみたいな」 「考えてみたいな」	○分かりやすく具体的な表現で示し、児童がゴールイメージをもてるようにする。 ○問題把握しやすいように、具体物を操作して示す。算数的活動が苦手な児童を意図的に指名し、できた時には賞賛し自信や意欲をもたせる。 ○およその見通しをペアやグループ、学級全体で共有し、自力解決への見通しをもたせる。 ○本単元の学習に必要な既習事項を発表させる。その中からどれを選択して課題解決に取り組むかを自己決定させる。 ○課題解決のヒントや問題の答えを児童がつぶやかなように、意図的指名によって解決の見通しにつなげる。
自力解決	「一人でやってみよう」 「できそうだな」 「学習の見通しを参考にしよう」 「難しいな。先生に質問しよう」 「分かりやすく表そう」 「友だちにも分かるように、理由も考えよう」	○机間指導をして自力解決の状況を把握し、意図的指名に生かす。 ○机の間を空ける等、落ち着いて考える場を工夫する。 ○児童を集めて、既習事項を整理した掲示物やヒントカードを近くから確認させる。 ○自力解決が進んでいない児童には、早い段階で個別に支援する。ヒントカードや具体物等を活用して、個に応じて支援する。 ○机間指導を行い、ノートに赤ペンで丸や花丸、アンダーライン等を付けて賞賛する。また、「なぜそう考えたのか」「まとめるとどうということか」など、児童の思考を深め広げる助言をする。
集団解決 ○ペア活動 ○グループ活動 ○全体で練り上げ	「ここまで考えたけど、この続きはどうしたらいいかな」 「こんな考え方ややり方があったんだな」 「自分の考え方と同じところは…」 「自分の考え方と似ているところは…」 「自分の考え方と違うところは…」等	○ペア活動やグループ活動では、一人一人の実態や自力解決の状況をもとに、意図的座席配置にする。 ○表現の仕方を指導する。(ノートに書いたことを指しながら話す、書いたこと以外にも言葉をたしながら話す、等) ○分かりやすく表現できた児童を賞賛して全体に広めたり、手本にさせたりする。 [ペア活動] ○考え方ややり方を交流することを、主な目的とする。 ○話合いの始めと終わりにはあいさつをさせる。 ○相手と向かい合い、相手の考え方の良いところを伝えてから自分の考えを言うようにさせる。等 (以下略)

4 成果と今後の課題

授業の導入で児童に本時のめあてをもたせ問題をしっかりとつかませることは、自力解決の過程で主体的に取り組めることにつながった。また、学習過程スタンダードの各過程における学習活動を充実させるために支援の工夫や改善を行ったことで、学習活動への支援や留意点が明確になり、よりきめ細かな指導ができるようになった。さらには、学習過程が明確になったことから板書の構造化をしやすくなり、児童の思考が整理され効果的であった。

課題としては、学習過程スタンダードに沿って授業を進めると時間が不足するため授業のタイムマネジメントが大切になり、各過程における指導の手立てを工夫していく必要がある。また、集団解決の過程において、児童が自分の考えをよりよく表現し問題解決につながられるよう集団解決の場面での指導の手立てを工夫する必要がある。今後も研究を推進し、自ら考え表現できる児童を育成していけるよう力を尽くしたい。

※1 『学習過程スタンダード』は高崎市教育センターが提案しているもの。「課題設定」→「自力解決」→「集団解決」→「まとめ、振り返り」→「補充、発展」を基本的な流れとする。(http://swa.city.takasaki.gunma.jp/ky-center/ 参照)

Ⅳ へき地学校における生徒指導の実践

〈1〉 小学校

「たくましく生きていく子」を育成する生徒指導

昭和村立大河原小学校長 荒木 富美子

1 地域・学校の概要

本校の児童は、保育園から引き続きの兄弟姉妹のような人間関係に加えて、全校児童 78 名の小規模校ならではの密度の濃いふれあいの中で、互いのよさを認め合い、それぞれが活躍の場を得て、自己有用感を高めながら、仲良く生活することができている。しかし、中学校では村内の3つの小学校が集まって郡内では一番大きな中学校に進学する。一人一人が大切にされ、活躍の場が保証される環境の中で、まじめでこつこつ努力できる子どもが多く学力・体力も比較的高いという、この上なく恵まれた環境ではあるが、他校に比べて中一ギャップが大きくなっているように感じる。学習・生活ともに経験したことはよくできるが、未経験のことに対する不安や躊躇が大きいのである。この子どもたちが、中学校での生活や将来の予測が難しい社会にたくましく生きていくために必要な力を育むための指導への転換を図ることが急務である。

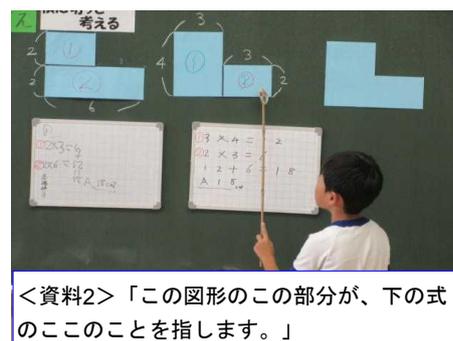
2 本年度の生徒指導の方針

- (1) よりよい解決を目指して課題に取り組み思考力を育むため、根拠を明らかにしながら考えを深めていく学習を意図的に行う。
- (2) 中一ギャップを緩和するため、自立心を高めるとともに自分の力で聞き取って判断することができる力を育む。
- (3) 特別な支援が必要な児童への指導を通して心の安定の場を設け、学力やコミュニケーションの力を付けていくため、特学の新設を機会に「喜んで通える」物的・心的条件を整備するとともに、保護者面談を通して、児童の特性について理解を深め合えるようにする。

3 実践の概要

- (1) 校内研修において、「根拠を明らかにしながら表現することのできる児童の育成(算数)」を目指し“必要感をもった課題把握”と、“考えを視覚化した板書構成”により友だちと意見交換しながら思考を深めていけるように研修を進めた。なぜこの問題を解くのか？既習の知識で分かることは何で、本時の「めあて」として解決すべきことは何かを子どもの言葉で言わせながら明確にしていく。〈資料1〉

そして、子どもたちは自分の考えがどの考えに似ているのかを考えたり、友だちがどのように考えたのかを発表したりしながら、思考を深めていく。この時に、図や式など表現方法の異なるものを行き来しながら明確に関連付けることによって、更に思考を深めていく。〈資料2〉



総合的な学習の時間においても、単元を構成する際に、各学年ともに、地域の多くの方と共同で作上げた。子どもが主体的に探究したくなるような単元構成や学習活動を構想した。〈資料3〉



〈資料3〉「そうか、そうすれば、おじいちゃんたちも楽しいんだ。改造しよう！」



〈資料4〉「初代の人が、とても辛い仕事を朝から晩まで続けられたのは・・・」

算数を中核とした研修を総合的な学習の時間に広げたことにより、どの教科でも取り入れられる素地をつくることになった。また、算数での思考の視覚化を広げ、総合では協働の場面において、互いの意見をうまく反映し、思考を深めていく仕組みとして思考ツールを活用した。〈資料4〉

- (2) できるだけ歩いて登下校するという方針の下、実施している集団登下校〈資料5〉は、子どもの自立心や、低学年の面倒を見ること、困ったことがあったときに自分たちで対処すること等、たくましい心身など多くを学ぶ機会となっている。また、年



〈資料5〉「泣かずに登校できるようになったよ」



〈資料6〉「大丈夫だよ。1.2.3～」

間を通して6回の大会を実施する団活動〈資料6〉の充実により、話し合いや関わり合いを多く経験することで、好ましい関わり合いができるようにした。

昨年度、集会の中でしっかり聞くことができるよう、姿勢や整列などの改善を図った結果、内容も聞き取れるようになったことを受け、本年度は授業中の姿勢について指導している。

- (3) 特別な支援を必要とする児童（1名の入級児・7名の個別指導児）が「さくら教室」に喜んで通う環境（物的・心的）を整えた。また、知的障害学級、通級指導教室の優れた指導の学校の視察や巡回相談員の指導を受けたりして、担当者の指導の質を上げられるようにした。そして、入級や個別指導、通級指導（巡回指導1名）に当たって、保護者との面談を行い、子どもの特性を共通理解したり、保護者の要望を聞いたり、検査の承諾を確認したりした。また、検査結果の報告時の面談において、保護者と今後の方針や互いの努力点を確認し合った。



〈資料7〉「やった～！あいうえおを全部なぞれた」

4 おわりに

今年度の県の総合的な学習の時間の授業公開と村教研の公開授業を目指して、昨年度より2年間かけて研修を深めることができた。算数や総合での合理的な考えや練り上げた考えを導いていくために、自分の考えと友達の考えを比較したり、補ったりしながらよりよい導き出し方を探るといった姿勢が職員にも子どもたちにも身に付いたことが大きな収穫である。また、特別支援学級の立ち上げには、前年度、特学が新設されることが分かってから4ヶ月間かけた。そして、担当者の創意工夫により、入級児はもちろん個別指導や通級の巡回指導を受ける指導の難しい子どもたちの笑顔が増えてきた。

今後、この体制を引き継いでいくこと及び、特別な支援を必要とする子に対して専門家がない中で更に必要なコミュニケーション力を付けていけるかが課題である。

〈2〉 中学校

学校教育目標、生徒会スローガンの達成に向けた 「積極的な生徒指導」の推進

上野村立上野中学校長 飯出 哲夫

1 地域・学校の概要

上野村は県南西部の端に位置し、西は長野県、南は埼玉県と県境を接している。林野率は95%に近く平坦地は極めて少ない。人口は平成26年4月1日現在1,300人で、群馬県で最も小さい自治体である。最近では村のIターン政策により、人口の減少に歯止めがかかりつつある。

本校は、昭和56年4月、旧上野西中学校と旧上野東中学校が統合し、上野中学校として発足し、開校36年目を迎えたへき地2級の学校である。生徒数は漸減の傾向にあり、平成28年度は29名が在籍している。平成4年度に開園した「山のふるさと合宿：かじかの里学園」が、生徒数減少の一定の歯止めとなっている。現在、男子5名、女子1名、計6名の生徒が、学園から通学している。

本村の学校教育にかける熱意は高く、中学3年生全員へのニュージーランド研修、給食費無償などの村当局の施策や地域、PTA等の物心両面にわたる協力を得ながら、学校教育を進めるといった恵まれた環境にある。第63回全国へき地教育研究大会群馬大会では分科会会場校であった。

2 今年度の学校教育目標と生徒指導の方針、指導の重点

学校教育目標は、「上野村に誇りを持ち、ふるさと上野村で志を果たそうとする生徒の育成」である。『ふるさと上野村で志を果たす』とは、高校・大学等の若い時期はふるさと上野村を離れていても自分の自己実現をふるさと上野村で果たそうとするということである。

今年度の生徒指導の基本方針は、「学校教育目標、生徒会スローガンの達成に向けた『積極的な生徒指導』の推進」であり、指導の重点は以下の4つである。

- ①「上野の子は良い子だから」から「上野の子をより良い子に」へ。
- ②「小規模校だから仕方ない」から「小規模校だからこそその取組を」へ。
- ③伝統ある学校行事をより良いものへと向上させる。
- ④全職員が一丸となって取り組む「生きる力」を育てる生徒指導の実践。

3 具体的な取組

(1) 生徒会スローガン『理想の追究』

生徒会代々のスローガンとして、『理想の追究』がある。これは、「未来を担う上中生よ、理想を掲げ行動しよう」という思いから制定された。この生徒会スローガンを達成させるために、本部役員が毎月の目標を決め、目標達成に努力している。今年度からは、前月の目標に対して積極的に取り組んだ生徒に対し、生徒会が表彰している。

(2) 行事を通して生徒を鍛える

今年度は、全校生徒29名である。一人一人がそれなりの役割をこなさなければ、学校行事は回っていかない。全職員で、学校行事で生徒を鍛えるという共通理解のもと学校行事に当たっている。例えば、生徒は全校集会等の時に司会や発表を何度もしなければならぬ。その際メモは見ても良いが原稿を読むことは禁止している。生徒は最初はとまどった場面もあったが、今は当たり前にならずに、表現力の向上にもつながっている。

(3) 団別による活動

全校生徒を、「榛名団」「赤城団」「妙義団」の3団に分け、球技大会、持久走大会、体育祭、百人一首大会を団別優勝を目指し活動している。3年生がリーダーシップを取り、毎年各競技で熱い戦いを繰り広げている。

(4) 地域とのかかわり

① 「野草採集」

5月上旬に、地域の講師を招いて「野草採集」を行っている。薬草、食べられる野草などを教わり、採取して調理して味わう上野村ならではの行事である。

② 「河川清掃」

5月下旬に行われる上野中の伝統行事である。学校周辺の河川清掃を行うものである。長年の成果が認められ、平成25年度日本河川協会から表彰された。

③ 「御巢鷹山慰霊登山」

連携型中高一貫教育事業の一つとして、「御巢鷹山慰霊登山」を行っている。上野中では、生徒会本部役員、JRC委員以外にも2年生全員が参加し、上野村民として慰霊の心を引き継いでいく行事にしている。

(5) その他の活動

① 藤岡市立北中学校との交流

藤岡市で一番生徒数の多い藤岡北中学校と以下の交流を行っている。

ア 交流授業

6月に、上野中生が1日北中学校に行って一緒に生活をする。1つのクラスに2～3人の上野中の生徒が入り、朝の会から部活動まで一緒に活動を行う。最初は物怖じしていた生徒が帰る頃には、しっかりとコミュニケーションを取れるようになる。また、生徒は大規模校の良さ、小規模校上野中の良さを肌で感じ取ることができている。

イ 北中学校体育祭への参加

9月に行われる北中学校体育祭に全校生徒で参加している。市内の他の中学校と一緒に「スーパーリレー」に参加したり、全校生徒で踊る「上中ソーラン」を披露したりする。北中学校の保護者にも好評であり、何より北中生徒・保護者1000名を超える中で披露する「上中ソーラン」は、生徒にとって貴重な体験となっている。

ウ 上野中文化祭での合同合唱

11月に行われる上野中の文化祭に、藤岡北中学校の3年生の有志が参加して合唱を披露してくれると同時に、上野中生と「栄光の架橋」を合同合唱している。70名を超える生徒の真剣な合唱は保護者をはじめ聴く人に多くの感動を与えるとともに生徒にとって大きな思い出になっている。

② 家庭学習を全職員でチェック

上野村には塾がない。そのため、学校教育が学力向上の全てを担わなくてはならない。そのため、家庭学習にきちんと取り組ませることは、非常に重要となってくる。しかし、家庭学習に対する意欲には個人差があり、学校の一つの課題になっていた。そこで、生徒に、家庭での生活記録表を配布し、有効な時間活用を促し家庭学習に取り組ませている。そして、生徒が提出する宿題や自主学習のノートチェックを全職員で行っている。全職員でチェックすることにより、生徒の家庭学習に対する共通理解ができると同時に、積極的な生徒指導の一助となっている。

4 おわりに

学校教育目標、生徒会スローガンの達成に向けた『積極的な生徒指導』の推進に向けて取り組んでいるが、道半ばである。「生徒に胸が張れる職員集団」を合言葉に、引き続き全職員で地道に取り組んでいきたい。

第 2 部

へき地学校教員研修のあゆみ



群馬県へき地教育研究大会
多那小 2年 算数



群馬県へき地教育研究大会
多那中 1年 理科



群馬県へき地教育研究大会
多那小 6年 道徳



群馬県へき地教育研究大会
多那中 2年 社会

へき地学校教員研修の様子



全国へき地教育研究大会青森大会
全体会



全国へき地教育研究大会青森大会
分散会



群馬県へき地教育研究大会
授業研究会 多那小



群馬県へき地教育研究大会
授業研究会 多那中

I 平成28年度へき地学校教員研修の概要

群馬県へき地教育研究連盟研究部長

沼田市立利根中学校長 **今井 浩**

1 平成28年度へき地学校教育

平成28年度の県内のへき地学校は、休校中の2校を含め35校、児童生徒数2,863名、教職員数420名である。へき地学校の児童生徒数に占める割合は、県内全体の1.8%で、昨年と比べると学校数は4校減（3校は統合による閉校、1校は見直しによるへき地解消）、児童生徒数で208名の減、教職員は39名減である。この10年で学校数が26校減少し、生徒数も約半分に減少している。

へき地教育研究連盟としては平成26年度の第63回全国へき地教育研究大会群馬大会の成果と課題を受け、へき地学校・へき地小規模校の利点や地域との緊密な連携を生かし子どもたちに「生きる力」を身に付ける教育、個に応じた教育、豊かでたくましい心を育てる教育を推進してきた。

2 活動方針

(1) 研究主題「ふるさとで心豊かに学び、新しい時代を切り拓く子どもの育成」

～へき地・小規模・複式学級を有する学校の特性を生かした

学校・学級経営と学習指導の深化・充実をめざして～

(2) 運動方針

① 本連盟は群馬県教育委員会、市町村教育委員会、へき地教育振興会等と連携を密にし、へき地教育の充実・発展に努める。

② 本連盟に総務・調査・研究部を置き、広報活動・研究事業の推進、研究成果の収録・発行等を実施する。

③ 本連盟は諸活動を通して、へき地学校教職員の連帯や親睦、指導力の向上、教育の諸条件改善等に努め、へき地教育の一層の充実を図る。

(3) 活動内容

① へき地関係教育諸情報の伝達及びへき地教育についての理解を深める広報「県へき連」を発行する。

② へき地教育研究大会を群馬県教育委員会及び群馬県へき地教育振興会と共同開催し、へき地学校における経営・指導上の諸課題について研究協議し、へき地教育の充実・振興に資するとともに、へき地教育に携わる教職員の資質の向上を図る。

③ 群馬県教育委員会及び群馬県へき地教育振興会と連携・協力し、へき地教育の諸課題と研究実践を収録した「板木」を継続発行し、へき地教育の一層の充実と発展に資する。

※ 今年度よりへき地教育ブロック別実践研究集会を中止とした。

3 研究、研修の概要

(1) 第65回全国へき地教育研究大会青森大会への参加 10月13日（木）・14日（金）8名参加
青森県（1日目：リンクステーションホール青森他 2日目：青森県内6地区9会場）

(2) 第65回群馬県へき地教育研究大会 11月8日（火）84名参加
Cブロック開催 沼田市立多那小中学校

(3) 関東甲信越へき地教育研究大会東京大会への参加 11月24日（木）・25日（金）14名参加
東京都（1日目：国立オリンピック記念青少年総合センター 2日目：大島町立つばき小学校・新島村立新島中学校・八丈町立三原小学校）

(4) 広報「県へき連」第80、81号発行

(5) 群馬県へき地教育研究資料「板木」第65集発行

Ⅱ 第65回群馬県へき地教育研究大会

〈1〉概要

群馬県へき地教育研究連盟研究部長

沼田市立利根中学校長 **今井 浩**

- 1 趣 旨** へき地学校の経営実践や授業実践についての研究協議を通して、へき地教育の改善
・充実に資するとともに、へき地教育に携わる教職員の資質の向上を図る。
- 2 テーマ** ふるさとで心豊かに学び、新しい時代を切り拓く子どもの育成
～へき地・小規模・複式学級を有する学校の特性を生かした学校・
学級経営と学習指導の深化・充実をめざして～

3 期 日 平成 28 年 11 月 8 日 (火)

4 会 場 沼田市立多那小中学校

5 日 程

9:30 9:50 10:20 10:40 10:50 12:00 13:15 13:35(小) 13:30(中) 14:20 14:45 16:15

午前 の部 受付	開会 行事	全 体 会	移 動	班別研究協議	昼食 ・ 休憩	午後 の部 受付	公開授業	移 動	授業研究会
----------------	----------	-------------	--------	--------	---------------	----------------	------	--------	-------

6 全体会 全へき連、関ブロ、県へき連報告確認等 へき地教育研究連盟理事長 黒澤 守

7 班別研究協議

- (1) 提案 小学校班 吾妻郡中之条町立六合小学校長 山田 幾久
中学校班 安中市立松井田北中学校長 畑 光代

(2) 班別協議

班	司 会	記 録	世話係	指導助言者	会 場
小学校	木檜 康則 (東部小校長)	松本 聡 (岩島小校長)	埴田 栄一 (応桑小校長)	小林 晃男 (吾妻教育事務所指導主事)	多目的室
中学校	黒崎 高行 (倉渕中校長)	飯野 聡 (中里中校長)	飯出 哲夫 (上野中校長)	町田 浩一 (西部教育事務所指導主事)	音楽室

8 公開授業ならびに授業研究会

(1) 公開授業

学年	教科	単元・題材名	指導者	会 場
小学 1 年	算数	「ひき算」	高宮 昭子	小 1 年教室
小学 6 年	道徳	「郷土のために尽くす人々の思い」 4 - (7)	鷲頭 生治	小 6 年教室
中学 1 年	理科	「光の世界」	阿部万里子	理科室
中学 2 年	社会	「中部地方」(地理的分野)	細谷 龍男	中 2 年教室

(2) 授業研究会

学年	教科	司 会	記 録	指 導 助 言 者	会 場
小学 1 年	算数	荒木富美子 (大河原小校長)	吉野 泰広 (多那小教諭)	町田 浩一 (西部教育事務所指導主事)	小 1 年教室
小学 6 年	道徳	萩原 茂樹 (片品小校長)	高橋 暁美 (多那小教諭)	長屋 竜太 (中部教育事務所指導主事)	小 6 年教室
中学 1 年	理科	狩野 俊輔 (南雲小校長)	萩原 裕子 (多那中教諭)	小林 晃男 (吾妻教育事務所指導主事)	副教室
中学 2 年	社会	高桑 実 (片品中校長)	和田 忠久 (多那中教諭)	永島 芳信 (利根教育事務所指導主事)	中 2 年教室

〈2〉提案要旨

《小学校班》

小規模校のよさを生かした積極的な学校経営の推進

～六合こども園、六合小学校、六合中学校の連携を通して～

中之条町立六合小学校長 山田 幾久

1 学校の概要

中之条町六合地区は、吾妻郡の北西部に位置し、上信越高原国立公園の山々や白砂川の溪流などが四季を通じて美しい景観を織りなす雄大な自然の中で、自然と調和しながら固有の歴史と文化を育み今に伝えている。平成 22 年 3 月の中之条町と六合村の合併により中之条町立六合小学校と校名を変更し、現在に至っている。児童数 32 名、教職員数 13 名の小規模校である。本年度は 1、2 学年が複式学級で、特別支援学級を含めて 6 学級で編成されている。こども園や中学校との連携が盛んに行われるとともに、学校と地域との結びつきが強く、学校教育目標の「ふるさととの自然と文化を愛し、21 世紀をたくましく生きる六合っ子の育成」を目指し、地域に開かれた信頼される学校づくりを進めている。

2 実践の概要

(1) 研究主題設定の理由

中之条町内の小中学校は、小規模へき地学校と中規模平坦地学校の二極化した状況にあり、それぞれの学校で学校規模、児童・生徒の実態、地域の状況や実情等を生かした特色ある学校づくりを進める必要がある。本校の最大の特色は児童数が少ないことである。すべての教職員が児童一人一人を深く理解し、きめ細かい指導ができる反面、多様な人間関係の中で学ぶ機会が少ない。このため、縦割り活動や異校種間交流を積極的に進める必要がある。六合地区では、これまでも地区・学校の共同行事、共通の学校評議員会、学校保健委員会、PTA連絡協議会等、園・小・中が連携して教育活動を進めている。園児、児童、生徒数の減少に伴う今後の学校の在り方を見据え、小規模校であるがための地域特性を「よさ」ととらえ、園・小・中の連携をさらに強化することを通して積極的な学校経営を推進したいと考え、本主題を設定した。

(2) 実践の内容

① 教育課程にかかわる連携・協力

ア 外国語活動

本校では、平成 29 年度実施に向けて英語教育に係る教育課程特例校の申請を行っている。3・4年の総合的な学習の時間を 20 時間削減し、外国語活動を新設する。また、5・6年の外国語活動を 35 時間削減し、英語科を新設する。これを見据え、今年度から中学校の英語担当教諭に小学校勤務の兼務発令を行い、指導体制を強化している。6年の外国語活動では、8名の児童に対し、担任、中学校英語担当教諭、ALT、英語教育指導員の4名が役割分担を明確にしながら指導にあたっている。英語教育指導員の指導のもと、協力して単元構想や教材教具の工夫に努め、充実した外国語活動が展開されている。中学校の先生と一緒に授業を行うことで、担任の授業の進め方や指導技術が向上し、児童も外国語を使って楽しく前向きにコミュニケーションをとろうとしている。

イ 園・小・中合同運動会

園・小・中合同運動会は今年度で4年目を迎える。各校・園の校長、教頭、体育担当教諭をメンバーとする運営委員会を年間3回開催し、企画・運営を行っている。こども園の種目に小中学生がサポーターとして出場したり、児童・生徒が協力して係活動を行ったりするなど、ほのぼのとした雰囲気の中で交流を深めている。また、今年度は新たな試みと

して、小中学生が合同でリズム縄跳びの演技に取り組んだ。本校では業前運動にリズム縄跳びを取り入れてきた伝統があり、中学生も経験している。各校での練習や数回の合同練習を通して縄跳びの技能や集団演技としての質を高めた。これらの取組は、園・小・中学校の相互理解はもとより、小一プロブレムや中一ギャップの解消の観点からも意義ある教育活動である。

ウ 園・小・中合同文化祭

六合産業文化祭との共催で園・小・中学校合同の文化祭を実施している。小学校の教育課程への位置付けは文化的行事である。ステージ発表、展示発表、体験活動の3つの内容で構成されている。小学校では、校内研修のテーマとして「目的意識をもって伝える力を伸ばす指導の工夫」を設定し、平成26年度は「話し方名人、聞き方名人」の指導を、平成27年度には「発表の仕方や話し合いの進め方」の指導を積み重ねてきた。小学校のステージ発表では、これらの成果を生かし、学年ごとに音読発表（群読や音読劇）を行っている。中学校は総合的な学習の時間に「六合ふるさと研究」に取り組んでおり、その成果を紹介している。中学生の発表に触れることは、児童にとって地域のよさを知るとともに地域学習の進め方を学ぶ良い機会となっている。午後の体験コーナーでは、地域の人が講師となりワークショップ形式で行われ、ぞうりづくり、お手玉づくり、機織り、真綿がけなどの地域の工芸や伝統文化に触れる体験活動に取り組んでいる。

② 健康教育にかかわる連携・協力

六合地区学校保健委員会では、家庭、園、学校が連携・協力して六合っ子の健康を守ることをテーマに、生活習慣チェックリストを用いた基本的な生活習慣の改善に取り組んでいる。食事、運動、睡眠、清潔、排便、目、歯、生活の8項目について、園、小中学校の共通の課題を明らかにし、学級指導や保健活動に活用している。また、広報「生き生き六合っ子」を通じて家庭への啓発活動を行っている。研究協議会では、生活習慣チェックリストの結果に基づく各校、園の取組について情報交換するとともに、学校歯科医、学校医、学校薬剤師、保健師を招いて「歯と口の健康」についての講話及び研究協議を行っている。

③ 学校運営・教職員交流における連携・協力

学校運営における連携としては、園・小・中学校合同の学校評議員会と事務の共同実施を挙げることができる。園・小・中学校が同じメンバーで学校評議員会を構成し、各種行事への参加や授業参観を要請するとともに、園・学校の経営方針や重点課題について意見を伺う機会を設けている。また、年度末に学校関係者評価をお願いし、次年度の学校経営に生かしている。事務の共同実施では、教育行政サービスの向上や学校管理運営の支援として「六合っ子ファイル」を作成し、教職員にサービス、給与、危機管理等の情報提供を行っている。また、共同実施だよりや六合っ子カレンダーの作成に意欲的に取り組んでいる。教職員交流では、指導力の向上を目指して互いの授業を参観し合うとともに、地域理解や教職員の親睦を目的に、園・小・中学校合同の教職員研修を行っている。

3 まとめと今後の課題

学校行事、健康教育、教職員交流等、さまざまな分野でこども園、小学校、中学校が連携して教育活動を進めている。しかし、これらを統括する組織的な裏付けが弱い。例えば六合地区連携・一貫教育協議会（仮称）を立ち上げるなどして、教育課程、生徒指導、健康教育、特別支援教育等の重点課題について、教職員が連携の意義を理解し、積極的に参画する必要がある。教育課程にかかわる外国語活動、運動会、文化祭等は連携をさらに充実させ、教育水準の向上につなげるとともに、基本的な生活習慣、学習規律、家庭学習等においてもきめ細かく連携していきたい。

《中学校班》

ふるさとを愛し、豊かな人間性をもった生徒の育成

～主体的・協働的な体験活動を通して～

安中市立松井田北中学校長 畑 光代

1 学校の概要

本校は、安中市の西部、長野県に隣接した松井田町にあり、その中心から北西へ約3km、細野ヶ原の高台に位置している。妙義山や浅間山、鼻曲山などが見渡せる自然豊かな場所で、細野小学校と隣接している。昭和22年、細野村立細野中学校として設立され、昭和30年代は300人をこえる生徒がいたが、平成に入ると、100人を割りはじめ、現在、生徒数は35人である。

本校の生徒は、素直で、穏やかである。与えられたことは、まじめによく取り組む。一方で、現状に満足しているところがあり、競争心や向上心に欠ける面が見られる。また、保育園・小学校・中学校とほぼ同じメンバーで構成されているため、人間関係が固定化傾向にあり、社会性は今一步である。発言・発表については、消極的で表現することが苦手な生徒が多い。

本校には将棋部があり、将棋の大会が近づくと地域の方を講師に招き、活動を行う。体力づくりを目的に、月1回、全校で放課後マラソンにも取り組んでいる。また、細野小学校の運動会に参加したり、学校保健委員会や奉仕活動を合同で開催したりするなど小学校との連携を密に行っている。家庭・地域は、学校に対して協力的で、特に、PTA活動については、細野小学校PTA・北中学校PTA・教育振興会の三会が連携し、合同で活動を推進している。

2 実践の概要

(1) 研究主題設定の理由

学校の北西に「たかとや（鷹戸谷）」という山がある。地域のシンボルともいえる山で、本校の生徒会誌のタイトルにもなっている。しかし、最近では、この山がどこにあるのか知らない生徒が増えてきている。また、安中市については、名所を挙げて紹介することができるが、地元である細野地域に限定すると、特色等を紹介できる生徒は少ない。中には、「人の温かさ」に着目して説明できる生徒もいるが、全体的に地域への関心が低くなっているのが現状である。

本地域は、学校に対して協力的で理解がある。現在も、学校の除草作業を地区ごとに割り振り、支援を続けている。北友祭（文化祭）には、毎年、たくさんの方が訪れ、生徒の発表に大きな拍手を送ってくれる。細野は、人に優しい温かい風土の地域である。

以上のような実態から、生徒一人一人が地域によって支えられていることを自覚し、この細野に愛着や誇りをもち、地元に貢献できる生徒を育てることは大変意義あることと考える。

そこで、本校生徒の特徴及び地域の実態を考えたとき、学校・地域の特色を生かした主体的・協働的な体験活動を通して、ふるさとのよさに気づき、「ふるさとを愛し、豊かな人間性をもった生徒の育成」が重要であると考え、本主題を設定した。

(2) 実践の内容

<p>〈研究主題〉</p> <p>ふるさとを愛し、豊かな人間性をもった生徒の育成</p> <p>〈めざす生徒像〉</p> <p>○地域に愛着をもち、貢献できる生徒</p> <p>○自分の考えを表現できる生徒</p> <p>○進んで協力できる生徒</p> <p>○最後までやり抜く生徒</p>	道徳・各教科と関連	主体的・協働的な体験活動 (総合的な学習の時間・特別活動 等)	
		〈環境教育〉	〈キャリア教育〉
		・勤労生産学習	・福祉体験学習
		・クリンクリンの日	・職場体験学習
		・奉仕活動	・北友祭（文化祭）
		・リサイクル回収	・細小運動会への参加

① 環境教育の主な取組

○ 勤労生産学習（総合的な学習の時間）

学校園ができた昭和 61 年から本格的に始まり、地域の協力のもと、作物栽培を通して、ふるさとの自然の豊かさに感謝したり、働く喜びや協力の大切さ等を体得したりすることを目的に取り組んでいる学習である。

今年も、4つの縦割り班を編成し、3年生をリーダーとして、取り組んだ。班員の話合いにより栽培作物を決め、水やりや除草作業を協働で行いながら、すいか、きゅうり、ミニトマト、とうがらし、とうもろこし、さつま芋等を育てた。10月に行った収穫祭では、焼き芋とポップコーンを作り、収穫の喜びを全員で共有し、ふるさとの自然の恵みに感謝した。

○ クリソリンの日（地域の奉仕活動・業前の時間）

「地域への感謝・貢献」を目的に、生徒会環境委員会が中心となって全校生徒に呼びかけ、通学路や学校周辺のゴミ拾いを行っている。毎月、隔週の水曜日に実施し、さらに、月1回、隣接する細野小学校の児童会と連携し、合同で取り組んでいる。

○ ふるさとセンターの清掃（地域の奉仕活動・放課後 ※昨年は特別活動・生徒会活動）

学校を支えてくれている地域の方へ感謝の気持ちを表すため、自分たちにできることを考え、実践している。今年も、地域の生涯学習の拠点である「ふるさとセンター」の清掃を全校で行った。生徒会主催の活動で、自己有用感や達成感を得ることができた。

② キャリア教育の主な取組

○ 福祉体験活動（総合的な学習の時間）

1年生が2つの班に分かれて、地域にある「デイサービスほその」と「うすいの里」に行き、高齢者との交流活動を行った。事前に、生徒同士で交流の仕方を話し合い、当日、歌の披露やゲーム、肩もみをしてきた。

○ 北友祭（文化祭）（特別活動・学校行事）

午前中は、生徒たちが考えた「企画」（縦割り班による「スポーツ」「手芸品の製作」「コント」「お化け屋敷」）で小学生や地域の方を迎え、午後は、合唱コンクールを実施した。小学生や地域の方との交流は、社会性や表現力を養う上で大切な活動であり、達成感も得ることができる。小中の交流として中学生は細野小の運動会にも参加している。

3 まとめと今後の課題

勤労生産学習では、各班のリーダーの発表や生徒の感想から、作物栽培の大変さや収穫の喜びはもちろんのこと、感謝の気持ちや協力の大切さ等が学べたことが分かった。また、母校である細野小学校の運動会に意欲的に参加したり、奉仕活動等に率先して取り組んだりしている様子から、地域に貢献しようとする心が育ってきていることが伺えた。クリソリンの日の活動も参加生徒が増えてきている。北友祭（文化祭）では、地域の方と積極的に交流している生徒の姿から、表現力・社会性の豊かさを実感することができた。

今後は、ふるさとへの関心をさらに高め、愛着や誇りをもてるようにするため、校長講話やふるさと朝礼等で、地域の話題を取り上げ、地域のよさに気付かせていきたい。体験活動は、道徳や各教科、キャリア教育等と関連付けながら、主体的・協働的に取り組ませていく。発言・発表については、消極的であるため、教育活動全体を通して表現力の育成を図っていく。

本地域は温かく、学校に対して協力を惜しまない地域である。この地域の願いを受け止め、地域に根ざした教育の推進に努めるとともに、歴史と伝統ある「北中の教育」をしっかりと受け継ぎ、工夫・改善を図りながら、さらに発展させていきたいと考える。

〈3〉公開授業・授業研究会

沼田市立多那小中学校

1 研究主題

〈小学校〉思考力を高める算数科の指導の工夫～言語活動を充実させるための支援を通して～
 〈中学校〉考える力を身に付けた生徒の育成～深まりのある意見交流への工夫を通して～

2 授業公開及び成果と課題

① 小学校 第1学年（算数） 指導者 高宮 昭子

授業の視点

12-9の計算の仕方を考えるために、ブロックの操作活動や図をかき活動などを取り入れ、考えを交流したことは、「10のまとまりから取る」という見方を育てる上で有効であったか。

〈単元名〉 ひきざん

〈本時のねらい〉

十何-1位数で繰り下がりのある減法計算の仕方を、10のまとまりに着目しながらブロックや図などを用いて考える。

〈展開〉

過程	学習活動	学習活動への支援等	時間	評価項目
つかむ	(1)前時の学習を振り返り、12-9になる場面を思い出す。	<ul style="list-style-type: none"> 既習内容を思い出させ、計算の仕方を考える際には、ブロックや図を用いること、自力解決後に、互いの考えを説明し合うことを確認する。 答えの見当をつけさせる。 	5	
深める	めあて 12-9のけいさんのしかたをかんがえる。 (2)めあてを読み、12-9の計算の仕方を考える。	<ul style="list-style-type: none"> 黒板に12個のブロックを提示し、ここからどのように9を取るのかと投げかけ、全員にブロック操作をさせる。 答えに至るまでの過程を順序よく説明できるよう、ブロックを操作しながら十分考えさせる。その後、ブロック操作したことを、ノートに図で表すように指示する。 	12	
	<予想される児童の姿> ① ノートにさくらんぼ図をかき、減加法で答えを求めている。 ② ノートに○の図をかき、減加法で答えを求めている。 ③ 答えは求められたが、ブロック操作したこととノー	<個に応じた支援> ① 考えを賞賛し、説明の仕方を考え、練習をするよう指示する。 ② 考えを賞賛し、式で表すとどうなるのか考えさせたり、説明の練習をさせたりする。 ③ ブロック操作をさせ、どこから9を取ったのかを確認し、ノートの図と照らし合わせるよ	<数学的な考え方> A: 繰り下がりのある減法計算の仕方について、減加法によって求められることをブロックや	

<p>トに表したことが異なっている。</p> <p>④ ブロック操作したことをノートに表すことができない。</p> <p>⑤ 数え引きをしている。</p>	<p>う助言する。</p> <p>④ ブロック操作させた後、ノートに○の図をかかせ、どこから9を取ったらよいのかを確認させ、数を○で囲んだり矢印をかいたりして表せばよいことを助言する。</p> <p>⑤ 9を1回で取るには、どこから取るとよいか問いかけて、10のまとまりに着目させる。</p>	<p>図などを用いて考え、自分の考えを説明している。</p> <p>B: 繰り下がりのある減法計算の仕方について、減加法によって求められることをブロックや図などを用いて考えている。</p>
<p>2. 考えを友達に説明する。 (ペア学習)</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 12のどこから9を取り、残った数をどのように扱って答えを求めたのか、ノートを指し示しながら順を追って説明するよう指示をする。 ・ 自分の考えと似ているところや異なるところを見つけながら友達の考えを聞くよう伝える。 	<p>6</p> <p>図などを用いて考えている。 (ノート・発言・観察)</p>
<p>3. 考えを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実物投影機でブロック操作やノートを映しながら、計算の仕方を順を追って説明させる。 ・ 考えが深まっていくように、ブロック操作→○の図(数字や言葉の書き込みが少ないもの)→○の図(言葉による説明も書かれているもの)→さくらんぼ図の順に発表させる。 ・ どの考え方も「10のまとまりから取っている」という共通点に着目させる。 	<p>12</p>
<p>(3)学習を振り返り、まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りをする。 ・ 類題に取り組む。 <p>ま と め る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「12-9のけいさんのしかた」の手順にそって、ブロックを操作し、減加法の計算の仕方を全員で確認し、10のまとまりから取るとよいことをまとめる。 ・ この時間の学習で分かったことや新しく知ったことなどの振り返りを発表させる。 ・ 教科書の類題(12-8)に取り組ませ、10のまとまりから取る計算の仕方を確認し、活用できるようにする。 	<p>10</p>

〈成果〉

- ペア学習は、自分の考えを明らかにしたり、説明の仕方を確認したりするために有効であった。
- ブロック操作や図をかく活動を通して、児童が自分なりの計算の仕方を考えようとしていた。

〈課題〉

- 課題提示の仕方を工夫したり、既習内容との違いに気付かせたりすることで、10のまとまりを意識させたり、10のまとまりから取る必要性を感じさせたりできるとよかった。
- 実物投影機で映したブロック操作やノートの図などの児童の思考が残るような板書を工夫していく必要がある。

② 小学校 第6学年（道徳） 指導者 鷲頭 生治

授業の視点

児童の主体的な気付きを促すために、お祭りにかかわる情報を色分けしたり、時系列を示した矢印を提示したりしたことは、有効であったか。

<単元名>

「ふるさと祭り」〈内容項目 4－（7）郷土愛〉 講師：吉野 豊さん（祭好連会長）

<本時のねらい>

「ふるさと祭り」にかかわるゲストティーチャー（以下：講師）の説話をとおして、郷土の伝統と文化を育てた先人の努力や思いを知り、郷土を誇りに思い、伝統を守ろうとする心情を養う。

<展開>

過程	学習活動と主な発問	予想される児童の心の動き	時間	指導上の留意点
導入	1. 本時のねらいをつかむ。 「『ふるさと祭り』をとおして、地域への貢献について考える」	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと祭りについて学習するのか ・地域への貢献って何だろう ・どんなことを学ぶのかな 	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと祭りの写真を提示したり、事前アンケート結果のカード（青）を提示したりして、主題について学ぼうとする意欲を高める。
展開	2. 講師と授業者との対話を聞き、お祭りや地域への思いについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・祭好連というものがあるのか ・お祭りにはたくさんの人がかかわっているんだな ・お祭りの歴史はこんなに古いのか ・お祭りってけっこう大変だな 	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・講師について紹介し、授業者との対話形式でお祭りにかかわる情報を押さえていく。 ・情報を書いたカード（赤）を整理しながら黒板に貼っていく。 ・多くの苦労があることに気付かせるために、2つの立場のカードを比べさせる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・お祭りが好きだから ・自分と同じ楽しい思いを子どもたちにもさせたかったから ・多那のために何かしたいと思ったから 	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの苦労があるにもかかわらず、毎年お祭りが行われることの意義について考えさせる。 ・自分を講師の立場に置き換
	「こんなに大変なふるさと祭りを、吉野さんはどんな思いをもって、支えているのでしょうか。」			

	<ul style="list-style-type: none"> ・地域への恩返し ・地域貢献のため 	<p>えて考えられるように、切り返し発問をし、数名に発表させる。</p>
<p>3. 講師の話聞く。 (祭好連に入ったきっかけ、子どもの頃の吉野さんの様子、お祭りや地域への思い)</p> <p>4. 郷土や地域への貢献について、今までの自分を振り返る。 「今までに、地域貢献にかかわることをした経験はありますか。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のためにこんながんばってるなんてすごい ・自分も吉野さんのように地域のために何かしたい ・吉野さんも子どもの頃はぼくたちと同じだったんだ ・祭好連ってこんな風にできたのか ・ない ・ごみ拾い活動 ・八木節の練習 ・地域行事への参加 (・低学年の面倒をみている) 	<p>10分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートにメモ欄を作り要点を記入させる。 ・地域貢献や伝統などのキーワードを挙げながら、話をしてもらう。 ・講師の子どもの頃から現在にかけての思いの変化に気づけるように、黒板に大きな矢印を貼る。 <p>8分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・価値と自己とのかかわりについて考えられるように、キーワードを板書しておく。 ・自己有用感と実践への意欲を高められるように、児童が普段していることが地域貢献につながっていることに気付かせる。 ・共感的な理解を促すために、数名に発表させる。
		
<p>終末</p> <p>5. 講師の話聞き、本時の学習を振り返る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のために、できることからがんばりたい ・多那の伝統を守っていきたい ・多那のために、できることはなんだろう ・将来は祭好連に入りたい 	<p>7分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践への意欲につなげるために、郷土を大切にすることや地域貢献についての思いを話していただくようにする。 ・数名の児童に発表させ、前向きな態度を賞賛する。

<成果>

- ・講師とシナリオ風指導案を元に打ち合わせをしたことで、ねらいがぶれずに授業が展開できた。
- ・掲示物の工夫により視覚的に分かりやすく、理解もしやすかった。

<課題>

- ・教師と講師とのやりとりが多かったので、もう少し児童の発言を聞けるとよかった。
- ・児童に葛藤させたり、本音を引き出したりするために、発問の工夫が必要だった。

③ 中学校 第1学年(理科) 指導者 阿部 万里子

授業の視点

作図する前の過程において、鏡にうつった物体はもとの物体と鏡に対して対称の位置にあるように見えることを確かめる実験を取り入れたことは、作図の技能を高め、鏡で反射した光の道筋を推論させる上で、有効であったか。

<単元名>

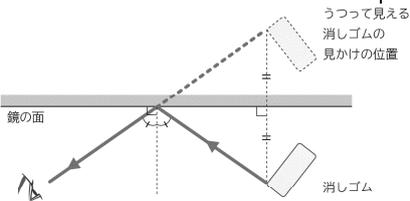
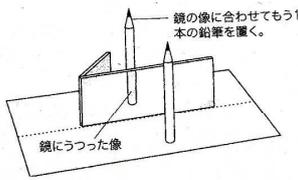
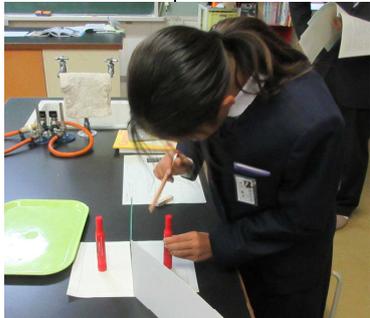
身の回りの現象「光の世界」

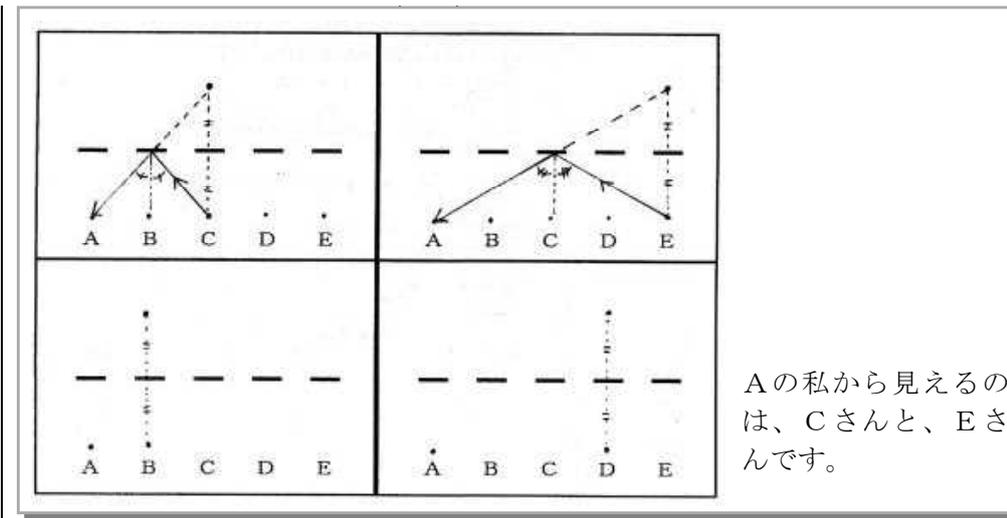
<本時のねらい>

光の反射の法則を利用して、鏡で反射した光の道筋を予測する。

<展開>

○おおむね満足 ◎十分満足

学 習 活 動	時間	指導上の留意点及び学習活動への支援	評価項目
<p>1. 前時の学習を振り返り、本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>鏡で反射して、自分の位置から見える人は誰か。光の反射の法則を使って、作図して予想しよう。</p> </div>	5	<ul style="list-style-type: none"> 光の反射の規則について入射角と反射角が等しくなることを確認する。 5枚の鏡の前に一人ずつ立たせて、自分の位置から誰が見ることができると予想する。 	
<p>2. 鏡にうつる物体の見かけの位置を確認し、反射による見え方の作図の仕方を知る。</p> 	15	<ul style="list-style-type: none"> 鏡にうつっている物体はどこにあるように見えたか前時の実験を振り返り、確認するために簡単な実験をそれぞれ行わせる。 鏡にうつった物体はもとの物体と鏡に対して対称の位置にあるように見えることを確認し、作図の仕方を確認する。  	
<p>3. 5枚の鏡の前に1人ずつ立ったとき、自分の位置から誰が見えるかを、光の反射の法則と作図を用いて推論する。</p>	10	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートを用意し、まずは自分の位置から見える人を作図し、予想させる。自分の分ができたなら、他の人から見える人を作図してみるよう促す。 	<p>○光の反射の法則を利用して、鏡で反射した後の光の道筋を作図して自分の位置から見える人を推論する。(思)</p> <p>◎光の反射の法則を利用して、鏡で反射した後</p>



の光の道筋を作図して、自分の位置や他の人から見える人を推論する。(思)

Aの私から見えるのは、Cさんと、Eさんです。

予想される生徒の姿と支援の工夫
 おおむね満足に至らない生徒への支援
 ・作図ができない。→ 一緒に方法を確認しながら作図する。
 ・光の道筋が、入射角と反射角が等しくなるように記録されていない。
 → 像が対称の位置にあることを記入してから、入射角と反射角が等しくなるよう記入させる。
 おおむね満足な生徒への支援
 ・正しい方法で正確に作図できている。→ 他の人の位置からの見え方も作図してみるよう促す。

4. 自分の予測を説明し合う。	10	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ自分の記入したワークシートを用いて、他の人に見せながら説明する。その際、入射角、反射角といった言葉を用いて、「～だから〇〇さんが見えると思う」というように説明させる。
5. 実際に5枚の鏡の前に立ち、自分たちの推論と合っていたかを確認する。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の立ち位置に印をつけておく。その場に立って誰がうつっているか確認し、自分の推論と照らし合わせる。 ・像は鏡をはさんで対称の位置に見える。 ・鏡にうつって見える物体は光の反射の法則と同じで、入射角と反射角が等しくなる位置にある。
7. 本時の振り返りをする。	5	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の授業で分かったことを個々にノートに書く。

現れて欲しい振り返りの姿
 ・鏡にうつって見える物の位置は、光の反射の法則と同じで、入射角と反射角が等しくなる位置にあることが考えられた。
 ・鏡にうつって見えている見かけの位置は、もとの物体と鏡を挟んで対称の位置にあることが考えられた。

<成果>

- ・生徒の興味、関心を引く課題で、個の思考がしっかり確保できる準備がされていた。
- ・実験のやり方やワークシートの書き方などで、きめ細かな支援ができていた。

<課題>

- ・小実験はこの課題においては必要だったが、教師側でまとめてしまったので、生徒に話し合せて結果から見い込めるとよい。
- ・めあての言葉がわかりにくかったので、生徒に伝わる書き方ができるとよい。

④ 中学校 第2学年(社会) 指導者 細谷 龍男

授業の視点

東海地域で野菜や花きなどの生産が盛んな理由を考える場面で、資料から読み取った結果を短冊に書かせ全体で交流し内容ごとに分類させたことは、農業の発達について多面的に考える上で有効であったか。

<単元名>

中部地方 ～産業の視点を中核にして～

<本時のねらい>

東海地域において、キャベツ・菊・メロンなどの農作物の生産が盛んな理由を資料を活用して調べ、地形、気候、人口分布、交通網等の地理的諸条件と関連付けて考えることができる。

<展開>

○おおむね満足 ◎十分満足

学習活動	分	学習活動の支援、指導上の留意点	評価項目
1. 「北陸」「中央高地」「東海」の三つの地域を確認する。 2. 本時は「農業の特色」について学習することを確認する。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクターで地図をスクリーンに映し、各地域を確認する。 ・ 「地形が変われば〇〇が変わる」というヒントから「農業」「工業」等、この単元では産業について視点を当てて学習することを再確認する。 	
3. 「東海地域」で盛んに作られている農作物はどれかクイズをする。 【東海地方】 キャベツ・菊・メロン お茶・みかん 【中央高地】 ぶどう・レタス 【北陸】 米 【鹿児島】 さつまいも 【めあて】	7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一人に「東海地域」で盛んに作られている農作物を考えさせ、なぜそこで生産が盛んなのかも予想させることで、学習への意欲付けとする。 ・ 隣り同士で自分の考えを伝え合い、一人に発表させる。 ・ 選択肢の中に既習学習の「九州地方」の農作物を入れておき、なぜ「さつまいも」が盛んに作られていたのかを想起させることで、予想を「気候」だけによるものでないことを示唆し、資料集や地図帳などを活用し、思考する場面を作る。 ・ 生徒が考えた予想を板書し、調べるめあてとさせる。 	
なぜ東海地域ではキャベツ・菊・メロン・お茶などの農作物の栽培が盛んなのか調べよう			
4. 「東海地域」の農業の特色を資料集・地図帳・教科書で調べ、分かったことを短冊用紙に記入する。 【予想される生徒の姿】 A：いくつかの資料を効	15	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時は特に、「東海地域」の農業を全員で扱うことで、多面的・多角的な見方に迫らせる。 ・ 社会的条件についての資料は、生徒によっては探しにくいことも考えられるため、プロジェクターで紹介できるようにしておく。 	○東海地域において、野菜や花きの生産が発達した理由について、なぜその地域で生産が盛んに

<p>果的に活用し、なぜその地域でその農作物の生産が盛んになったのかを、自然的条件（気温・降水量・地形）と社会的条件（大都市圏・交通網・施設園芸農業）をかかわらせて考えている。</p> <p>B：資料を活用しなぜその地域でその農作物の生産が盛んになったのかを自然的条件とかかわらせて考えている。</p> <p>C：なぜその農作物の生産が盛んになったのか資料をもとに探すことができない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を使い根拠をはっきりさせることで生徒の考えを深められるようにする。 ・自分で調べたことをまとめやすくするために、ワークシートを活用させる。 ・調べたことは短冊用紙に書き込ませ、発表の準備をさせる。 <p>【個に応じた手だて】</p> <p>A：社会的条件を複数かかわらせて生産コストについても考えさせ、分かりやすく発表できるようにように助言する。</p> <p>B：社会的条件にも目を向けさせるような資料を提示し、盛んになった理由を多面的に考えるように助言する。</p> <p>C：どの資料を使ったらよいのか、どのようにその資料から読み取ったらよいのか降水量の資料を振り返らせ助言する。</p>	<p>なったのかを自然的条件と社会的条件をかかわらせて考えている。</p> <p>◎東海地域において、野菜や花きの生産が発達した理由について、なぜその地域で生産が盛んになったのかを自然的条件と社会的条件をかかわらせて考え、コストの面にまで目を向けて考えている。</p>
<p>5.調べたことを発表し、内容ごとにまとめる。</p> 	<p>20</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員の短冊用紙が黒板に掲示されることで、視覚的にも考えを深めさせる。 ・掲示する短冊は、同じ内容でまとめて貼るように指示する。（KJ法形式） ・同じ内容の特色がまとまることで、多面的な見方に広げていく。 ・貼り出された短冊用紙を活用し、教師が本時のまとめをすることで、振り返りをしやすくする。 	<p><思考>（発言・ワークシート）</p> 
<p>6.本時の学習の振り返りをする。</p> <p>振り返りの姿</p>	<p>5</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りはワークシートに書かせ、数人に発表させることで農作物の盛んになった理由を多面的な視点から共有させる。 	<p>最初は東海地方の農業は暖かい気候の影響で、農作物が決まると思っていたが、友達の発表を聞いて、交通や大都市の近く、交通網の発達など人々の努力で農作物がさかんに作られていることが分かった。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・次回は中央高地や北陸の農業の特色をまとめることを知らせる。 	

<成果>

- ・東海地域と多那の農業を関連づけ、ふるさとのよさを大切にして気付かせる手立てがよかった。
- ・生徒は自然的条件のみを考えがちだが、社会的条件に気付かせるために短冊を黒板に貼ったのは効果的であった。

<課題>

- ・キャベツなど特化した農作物一つに絞り、そこから自然的条件・社会的条件を追究するとさらに深まりのある学習へと発展していったのではないかな。
- ・比較検討する場面では具体的な数値を提示することで、より実感を伴った学習になる。

Ⅲ 第65回全国へき地教育研究大会（青森大会）

〈1〉 概要報告

沼田市立利根中学校長 今井 浩

第65回全国へき地教育研究大会が、文部科学省、青森県教育委員会、全国へき地教育研究連盟等の主催により、平成28年10月13日(木)～14日(金)の2日間にわたって青森県青森市を中心に開催された。1日目は、青森市のリンクステーションホール青森を会場に、全国のへき地・小規模校・青森県内各学校の総数およそ1,200名が参加し盛大に開催された。本県からは、県教育委員会指導主事並びにへき地学校長の合計8名が参加した。午前の全体会に続き、午後は全国第8次研究推進計画研究課題別に6つの分散会が開かれた。2日目は、青森県内の9つの小中学校で公開授業が行われ、その後各分科会場で各地区の研究発表や熱心な協議が行われた。

第1日（10月13日）「全体会・分散会」

全体会では、開会式に続き基調報告が行われた。全国へき地教育研究連盟研究部長より、第8次長期5か年研究推進計画（平成26年～30年）の概要説明があり、第7次長期5か年研究推進計画の成果と課題を積極的に受け止め、21世紀を生きる児童・生徒に、地域の一員として「ふるさと」から学び、「ふるさと」を誇りに思う、人間力豊かな子どもたちに育てて欲しいという思いで、「ふるさとで心豊かに学び、新しい時代を切り拓く子どもの育成」という研究主題を設定したという説明があった。

また、青森大会実行委員会研究部長から、本大会の目的は、3特性を有する学校における学校・学級経営及び学習指導の深化・充実に関する実践等について研究協議し、その成果を各学校の教育活動に生かすことであるという説明があった。

記念講演では「『可能性を信じて～”技のデパート”を支えたひと・もの・こと」という演題で、元大相撲小結で現在NHK大相撲解説者をしている舞の海秀平氏より、これまでのいろいろな経験談をもとに、何事も目標をしっかりとをもって、あきらめないで努力することの大切さについて話があった。

次回開催地（高知県）挨拶・紹介並びに大会旗引き継ぎを行ったあと、アトラクションとして、橋本小学校全校児童並びに青森ねぶた囃子保存会「に組」による「橋本ねぶた囃子」が披露された。

午後は、全国第8次研究推進計画研究課題別に6つの分散会（課題1「家庭や地域と連携して、確かな学びを創る特色ある教育計画の創造と推進を図る」、課題2「ふるさとで学び、新しい時代を拓く、開かれた学校・学級経営の創造と推進を図る」、課題3「地域に根ざし、家庭や地域と連携して豊かな心をはぐくむ教育活動の創造と推進を図る」、課題4「児童生徒の分かる喜びや個性の伸長を重視した指導計画の改善・充実を図る」、課題5「学習意欲の向上や個に応じたきめ細かな指導を重視した指導方法の改善・充実を図る」、課題6「課題意識をもって自ら学び、仲間と共に高め合う学習過程の改善・充実を図る」）に分かれ、それぞれ2校(全国ブロック1校、東北ブロック1校)の実践発表をもとに活発な研究協議が行われた。

第2日（10月14日）「授業公開・分科会」

2日目は、青森県下の9つの小中学校（A外ヶ浜町立三廐中学校、Bつがる市立車力小学校、Cつがる市立車力中学校、D弘前市立常盤野小中学校、E三沢市立おおぞら小学校、F三沢市立第三中学校、Gむつ市立川内小学校、Hむつ市立川内中学校、I田子町立上郷小学校）で、分科会が行われた。前半は、それぞれの学校で研修主題に沿って、授業や全校活動などが公開された。後半はそれぞれの学校の実践発表及び研究協議が行われた。

〈2〉 分科会報告

A分科会

自分で考えて学習する生徒の育成を目指して

～学ぶ意欲を高める学習指導の工夫～

群馬県教育委員会義務教育課指導主事 武川 光

1 会場校 外ヶ浜町立三厩中学校（学級数4 生徒数21名 職員数11名）

2 地域・学校の概要

三厩中学校のある三厩地区は、3つの町が合併して誕生した外ヶ浜町の飛び地である。津軽半島の最北端に位置し、北は津軽海峡を隔てて北海道と相對している。地区に2つの漁協があり、マグロ漁も行われているが、漁業で生計を立てることは難しい。主立った地域産業もないため、過疎化と高齢化が進み、高齢化率は50%に達している。

三厩中は、外ヶ浜町より「無形文化財 太刀振（たちふり）」の保存会に指定されており、2学期の「三厩中学校ねぶた祭」では、手作りのねぶたを運行し、「太刀振」を披露している。

3 研究の概要

(1) 研究の内容

- ① 興味・関心や解決意欲を持たせる課題（問題）作りや課題設定の工夫
- ② 話し合い・学び合いが見られる学習形態（小集団）の工夫
- ③ 評価の工夫 A 学習内容を定着させるための問題 B 意欲向上のための評価の仕方

(2) 具体的な取組

- ① 日常と結びつけた課題の設定。新聞やテレビ番組を利用したり、日常生活に見られる現象を導入時に取り上げたりして、興味・関心を高め、話し合いに対する意欲を高める。
- ② 全校による学級会形式の話し合いの実施。司会、記録等の役割分担を決め、納得がいくまで話し合わせる。複数の視点や立場で考え、相手を説得する経験を積ませるためにディベートゲームを企画。形式を持った話し合いの体験を授業のグループ協議や全体発表に生かす。
- ③ A 評価の観点を示して実技テストを実施。すぐにフィードバックすることで意欲を高めた。授業の最初に小テストを行ったり、最後に学習内容を自分の言葉でまとめさせたりする。
B 話し合いの際には、話し合いの過程が見える化（付箋・ワークシート等）して評価させる。

(3) 公開授業

- ① 国語 1学年：「行事などの案内文を書く」
- ② 社会 2学年：「産業の発達と幕府政治の動き」
- ③ 保健体育 3年生：「球技 ゴール型（バスケットボール）」
- ④ 特別活動 全校：「三中祭終了集会」

4 所感

特別活動の授業では、文化祭の成果と課題について、上級生と下級生が一体となって意見交換をし、改善策をまとめていた。校内研修の主題にある「自分で考えて学習する」姿が具現化されたすばらしい授業であった。三厩中では、小規模校のよさを生かし、意図的に一人一人にリーダーなどの役割を数多く経験させている。「自分もうまくやれた」という成功体験が「さらに成長したい」という学びに向かう意欲につながっていると感じた。へき地校に通う生徒たちのたくましい姿と先生方のあたたかく、かつ先を見据えた指導に強い感銘を覚えた。

B分科会

主体的に学び合う子どもの育成

～ゴールを明確にした学習過程の工夫を通して～

長野原町立応桑小学校長 埴田 栄一

1 会場校 つがる市立車力小学校（学級数 5 児童数 40 名 職員数 13）

2 地域・学校の概要

つがる市の北側に位置する車力小学校は、北には十三湖、西には日本海、東に津軽平野を臨む自然に恵まれた環境にある。津軽平野北部は古くから砂塵や強風、風雪に晒され、現在の米作りを主産業とする豊かな実りを得るまでの先人の苦労は並大抵のものではなかった。現在は米はもちろんだ砂地を生かした果樹栽培や野菜栽培も盛んで、屏風山のスイカ・メロンは県内でも有名である。

一方で、地域の過疎化・少子化による波は避けられず、平成 28 年度に閉校を迎え、地区の 3 小学校が統合し平成 29 年度に統合小学校が開校する予定である。

3 研究の概要

(1) 研究内容

- ① 思考力・判断力・表現力を育み、主体的に学び合う子どもの育成を目指し、国語科において身に付けさせたい力を明確にした単元構成、協働的な学びを実現するための授業づくりに視点をあて研究に取り組んでいる。
- ② 「単元のゴールを明確にした学習過程の工夫」として、身に付けさせたい力の明確化、言語活動の効果的設定、モデルの提示等を研究するとともに、「本時のゴールを明確にした学習過程の工夫」として、話し合いや交流のさせ方、見通しや振り返りのさせ方等を研究している。
- ③ 「話すこと・聞くこと」の基礎トレーニングとして、全校集会の場で問答ゲームを年間数回取り入れ、論理的な話し方や考え方の向上に努めている。

(2) 公開授業

- ① 1 校時 1 年国語（単式）「くらしをまもる車」（学校図書）
〃 2 年国語（単式）「やっぴごらん おもしろいよ」（〃）
〃 3・4 年国語（複式）3 年「写真が動き出す-写真から物語を作ろう-」（〃）
4 年「これであなたも作家になれる」（〃）
〃 5・6 年国語（複式）5 年「よりよい考え方はどっち？」（〃）
6 年「パネルディスカッションをしよう」（〃）

- ② 2 校時 全学年【集会活動】「全校問答ゲーム」

4 所感

車力小学校では、児童に身に付けさせたい力と単元のゴールを明確にした言語活動を実践することによって、主体的に学び合う子どもになることを目指し、研究に取り組んでいた。公開授業ではどの学年も研究に迫る実践であった。特に中・高学年では複式でありながらも一斉指導が行われていた。そのためにマトリックス型年間指導計画を作成し、2 年間で全ての指導事項を繰り返して指導し、欠落がないようにするなどきめ細かな実践が行われていた。また、研究を支えるその他の活動も多岐にわたり行われていた。2 校時の「全校問答ゲーム」も 40 名で行うことで、へき地の特性（小規模・複式）を払拭する活動であった。群馬県でもめあての提示、振り返りの実施等実践しているが、単元のゴールを明確にすることは見習うべき点と感じた。

C分科会

確かな学力を身に付けた生徒の育成

～学び合い活動や異年齢集団による交流活動を通して～

草津町立草津中学校長 中島 透

1 会場校 つがる市立車力中学校（学級数7 生徒数116名 職員数20）

2 地域・学校の概要

車力地区は、津軽半島西北部の日本海沿いに位置しており、南北に小高い丘が続く屏風山、その傍らを悠々と岩木川、山田川が流れる自然豊かな場所である。長い年月をかけて岩木川の治水や防風林を築いてきたお陰で、農作物が豊かに実る大地となり、特に屏風山の銘柄のスイカやメロンは有名である。

全校生徒は116名と少ないが、行事にも積極的に取り組み、特に毎年、体育大会で披露している全校生徒による集団演舞とダンス、紅白に分かれた応援合戦はとても見応えがある。

3 研究の概要

(1) 研究内容

- ① 「夢を育むための確かな学力の向上」を学校課題に据え、数年前から学び合いの場の工夫についての研究に取り組んできたが、昨年度から、それに加え、異年齢集団の交流活動についても研究を進めることにした。それは、様々な交流活動を行うことにより、生徒個々の学びが深まるとともに、自己肯定感や自己有用感を高めることができ、それが学習意欲へとつながっていくと考えているからである。
- ② 具体的に、教員を「少人数を生かした学び合い」「異年齢集団による活動」「ICT機器の活用」の三つのグループに分け、研究を進めている。昨年度と発表年度の2年間をかけて研究を共有し合い、本校生徒の実態に即した効果的な指導のあり方を確立してきた。
- ③ 学校適応感尺度(アセス)や自己有用感・自己肯定感を測定する検査を実施して、きめ細やかな生徒理解に役立てるほか、生徒の変容を把握する検証材料として活用していきたいと考えている。

(2) 公開授業

- ① 1校時 1年道徳（単式）「ふるさとと車力と自分」
〃 2年A組体育（単式）「器械運動『マット運動』」
〃 2年B組数学（単式）「図形の調べ方『角と平行線』」
〃 3年A組国語（単式）「話す・聞く『場面に応じて話そう条件スピーチ』」
〃 3年B組英語（単式）「Interesting Languages『関係代名詞』」
- ② 2校時 全学年【特別活動】「全校合唱」

4 所感

C分科会公開授業①は、どの授業も学び合いの活動がメインになっており、東北訛りがやや感じられる会話に授業の充実感を感じた。公開授業②は【合唱づくり】の授業だった。縦割り集団の活動をとおして、自主的、実践的態度を身に付けさせることと、自己肯定感、自己有用感の高揚をねらいに取り組んだ授業であった。全体合唱した後、各パートリーダーから目標の確認があり、次にパートリーダーを中心にパート練習が行われた。最後にもう一度全体合唱が行われ、歌声はもちろん、リーダーの的確な指示とそれに対するフォロアーシップの素晴らしさに感動した。2時間の参観を終えて生徒たちの充実感と心の温かさを感じた。研究協議の中で「郷土を愛する心の育成が自己肯定感や自己有用感の高揚のために必要である。」という発言が印象に残った。

D分科会

主体的に表現する児童生徒の育成

～思考・判断を基盤にした表現力の育成～

みなかみ町立藤原小中学校長 堀江 英也

1 会場校 青森県弘前市立常盤野小中学校

(学級数 小3 中1 児童・生徒数 小5 中3 職員数 小6 中3)

2 地域・学校の概要

常盤野小中学校の学区は、嶽農場・嶽・湯段・瑞穂・羽黒・枯木平の6地域からなっていて、弘前中心街へはおよそ20キロメートルという地点にある。現在、戸数は80戸であり、児童生徒数の推移を見ると年々減少の一途をたどっている。今年度の児童生徒数は8人（小学校2年生と中学校3年生は欠学年）であり、小学校1年生が単式学級1人、3・4年生が複式学級2人、5・6年生が複式学級2人、中学校1・2年生が複式学級3人の在籍である。極少人数ではあるが、小中学校併置校のよさを生かし、様々な学校行事や児童生徒会活動を小中で取り組んでいる。日常的な委員会活動や全校朝礼はもちろん、行事や集会、遠足、運動会、文化祭など、ほとんどの行事を小中合同で行いながら、心豊かな児童生徒の育成に努めている。児童生徒は縦の繋がりが強く、上級生が自主的に模範を示し、下級生の世話をしながら協力して取り組む姿が、行事だけでなく登下校や休み時間の遊びなど普段の生活にも見られる。

3 研究の概要

(1) 言語活動が適切に位置づけられた単元計画や本時の指導計画

- ① 学習のねらいと言語活動とのつながり
- ② 児童生徒の実態に柔軟に対応した言語活動
- ③ 児童生徒が基礎的・基本的な知識・技能を習得する場面（教師が教える場面）と児童生徒がそれを活用して課題解決する場面のバランスがとれた言語活動

(2) 表現する場の設定

- ① 発達の段階や各教科の特質に応じた思考・判断や表現
- ② 相手・目的・意図に応じた表現方法（ICT機器の活用等）や表現内容

(3) 表現力育成のための教師の関わりや工夫（発問・指示・視点の広げ方等）

- ① 発表や話合いの相手役としての立場から
- ② 児童生徒の指導者としての立場から

(4) 公開授業

公開授業Ⅰ 小1年 算数 小3・4年 国語 小5・6年 算数

中1年 理科 中2年 国語

公開授業Ⅱ 中1・2年 総合的な学習の時間

4 所感

中学2年の国語の授業は、女子生徒一人であった。このような中で多様な考えにふれたり、生み出したりすることは難しい。そこで授業では、テレビ会議システムを利用して他校の生徒とのパネルディスカッションを取り入れた授業を行っていた。他校の生徒の様々な考えを聞き、そして自分の考えを伝えることができる喜びが生徒の真剣な表情や笑顔に出ていたように思う。また、へき地性・小規模性・複式形態という三特性を負の側面からのみ捉えるのではなく、逆に、極少人数の利点を生かすことをねらい、極少人数であるがゆえにできる個々の学習状況の把握と、それに適切に対応した指導を行っていることが、小中学校の授業を参観し感じ取れた。

E分科会

主体的に考え、学び合う児童の育成

～一人一人に学ぶ喜び、分かる楽しさを実感させる授業づくりを通して～

神流町立万場小学校長 黒澤 守

1 会場校 青森県三沢市立おおぞら小学校（一級地 8学級〈特支2学級〉 児童数110名）

2 地域・学校の概要

三沢市は青森県東部、太平洋岸に位置し、航空自衛隊基地、米軍基地を有する航空の町“おおぞらの町”である。「人と町、みんなで作る国際文化都市」を目指している。

おおぞら小学校は、平成18年度に4つの小学校が統合して開校した。平成24年11月には同じ敷地内に第三中学校が移転し、体育館や校庭は共用、校舎も短い渡り廊下でつながっている。そういった状況から地域型小中連携教育推進校にも指定され、よりよい連携について試行錯誤中であり、校内研修主題は9年間を見通して小中のつながりを意識したものになっている。

3 研究の概要

(1) 研究主題 主体的に考え、学び合う児童の育成

～一人一人に学ぶ喜び、分かる楽しさを実感させる授業づくりを通して～

(2) 研究の内容

○研究仮説1：基礎・基本の定着（5つの工夫…ルールやスキルの教室掲示等）

○研究仮説2：学び合い（学びのサイクル…「つかむ」「活動する」「まとめる」）

(3) 公開授業

① 公開授業Ⅰ

1年（11名）国語 「うみのいきものカードをつくろう」

4年（18名）道徳 郷土を守る「4－（5）郷土愛」TT

5年（23名）総合 世界一のお米マスターになろう ～おおぞら米作りがんばるぞ～

② 公開授業Ⅱ

2年（16名）英語活動 これは〇〇です

3年（18名）学級活動 3年スポーツ大会をしよう

6年（24名）理科 てこのしくみとはたらき

4 所感

おおぞら小学校は、学習指導に関して、単元で身に付けさせたい力を明確にして、「焦点化・視覚化・共有化」を取り入れた学習活動を工夫したり、学習のルールやスキルを意識させたりすることを通して、基礎・基本の定着を目指すとともに、学び合いを通して学びの深化を目指している。教育活動として、本道を地道に進めている印象を受けた。実際に、全国学力・学習状況調査でもA問題、B問題ともに高いレベルで力を伸ばしているとのことであった。

校内研修では、隣接する第三中学校と連携し、小学校で「学ぶ喜び、分かる楽しさを実感させる授業づくりを通して、主体的に考え、学び合う児童を育て」、中学校では「主体的に学び合う活動を通して、基礎・基本の定着、思考力を高める」という、一連の主題で研修を進めていた。

参観した4年道徳「郷土を守る」の授業では、児童一人一人の体験や過去の学習を喚起しながら授業が進められていた。TTによる指導で、T1が主に発問し、T2が上手に黒板にまとめており、中心活動の時間が確保され、児童は生き生きと活動し積極的に発言していた。2人の指導者が授業のねらいを十分に共通理解した上で協働する優れた授業だった。

F 分科会

基礎・基本を定着させ、さらに思考力を高めるための指導の研究

～主体的に学び合う活動を通して～

南牧村立南牧中学校長 飯塚 真琴

1 会場校 三沢市立第三中学校（学級数 3 生徒数 52 人 職員数 16 人）

2 地域・学校の概要

青森県の東、三沢市の北部に位置し、昭和 28 年 6 月 1 日に谷地頭中学校、織笠中学校、六川目中学校の三校を統合し、開校した。開校当時は生徒数 239 名、6 学級であった。その後、近年の生徒数減少に伴い、平成 24 年 11 月に学区を同じくするおおぞら小学校と同一の敷地に体育館を共有する形で建てられた新校舎に移転し、生徒数 52 名、3 学級である。隣接するおおぞら小学校とは、地域型の小中連携として、年 3 回の小中合同会議を実施しており、小中合同運動会、小中合同避難訓練などの行事や、中学生の読み聞かせ、職場体験などの児童生徒の交流活動、日常の授業公開で授業を参観し合う取組など、保護者・他地域の協力も得ながら小中が連携した教育活動を行っている。

3 研究の概要

(1) 研究仮説

各教科の特性を生かし、課題に対して解決の見通しをもち、情報を収集・分析・整理したり、他者に対して発信・交流したりする学習活動を行うことにより、生徒一人一人の思考力が高まるであろう。

(2) 研究方法

- ① 「アクティブ・ラーニング」についての考え方を共有し、「主体的に学び合う活動」に関連付けて研究を進める。
- ② 思考力・判断力・表現力については一体的に扱うものであるが、「思考力」という言葉に集約して研究を進め「主体的に学び合う活動」を充実させる中で生徒に身に付けさせていく。
- ③ 生徒の学び合う活動を主体的にするために、「課題解決の見通し」を導入段階でもたせる。
- ④ 「学び合う活動」については、情報の「収集」「整理」「分析」「発信」「交流」の場면을教科の特性や単元・題材のねらいに合わせて、より効果的に配列することと、指導の手立てについて研究を進める。

(3) 公開授業

- ① 公開授業Ⅰ 1 年：英語（22 人） 2 年：理科（19 人） 3 年：道徳（11 人）
- ② 公開授業Ⅱ 1 年：社会（22 人） 2 年：数学（19 人） 3 年：国語（11 人）

4 所感

三沢市立第三中学校では、主体的に学び合う活動を取り入れた学習場面の工夫について、各教科において主体的に学び合う活動をどのように捉えるかを明確にした上で、学習計画を作成し、全校一致の体制で授業改善に取り組んでいた。隣接するおおぞら小学校とも学習指導（学びのサイクル）等も 9 年間を一貫した小中連携が充実していた。

1～3 年生の各公開授業を参観させて頂いた。生徒と教師の信頼関係の様子はどのクラスも素晴らしく、話し合い活動の充実度は、クラスの中の安心と平等が確かに育っていることをうかがわせるものであった。殊に、3 年生の道徳・国語の授業では、自分の考えや意見をそれぞれがしっかりとつとともにもその根拠となる部分を相手に伝えることができていた。その話し合い活動の自然なやり取りの高さにとても驚くと同時に、自校の授業改善のヒントを頂くことができた。

G分科会

主体的に学び考え、表現する児童の育成

～自ら課題を見付け、進んで解決し、協働的に学び合う学習指導の研究～

安中市立細野小学校長 本多 利幸

1 会場校 むつ市立川内小学校（学級数8 児童数125名 職員数17名）

2 地域・学校の概要

むつ市川内町は、青森県下北半島のむつ市の西部、陸奥湾沿いに位置し、地域学習の素材が豊富である。陸奥湾での漁業、野平高原での農業、湯の川温泉や川内溪谷などの自然環境がある。

川内小学校では、これらの川内素材を取り入れた学習に取り組んでいる。

平成23年度、中学校に小学校の校舎が併設され、校舎併設型の小中一貫校としてスタートしている。小中9年間を通して、故郷「川内」のさらなる発展と後継を意識した指導を行うために、教育目標を「気高く 夢に挑戦 ～Catch My Dream～」とし、小中共通にしている。そして、中1ギャップ解消のために中期（小学校5、6年・中学校1年）における乗り入れ授業だけでなく、教師間の情報交換も定期的に行っている。

3 研究の概要

(1) 児童が知的好奇心をもって課題を解決したり、明るくはきはきと自分の考えを話したりすることができるようになるために、「生活科」「総合的な学習の時間」を研究の中心にして取り組んでいる。

(2) 研究内容

① 子どもが意欲的に課題に取り組むような地域素材の開発

・地域素材に富む川内地区の「ひと」「もの」「こと」に焦点を当て、地域理解を図る。

② 探求的な学習活動の各段階において、育てたい力をつけるための指導の仕方

・各段階における育てたい力を明確にして指導する。

③ 学習内容をより深めるための協働的な学び合い

・集団として問題解決をめざしながら、個の学びも充実できる学び合いの場を設定する。

(3) 公開授業（1校時）・小中合同合唱（2校時）

① 2年（単式）【生活科】「町のすてきは みんなのじまん」

② 4年（単式）【総合的な学習の時間】「川内発信」

③ 6年（単式）【総合的な学習の時間】「ふるさと下北の未来への創造

～未来予想図 ふるさと下北からの挑戦～

4 所感

第6学年の授業の中心は「未来の下北がどうあるべきか話し合おう」であった。下北のよさと課題が出された。よさの「温かい人柄」「自然が豊か」、課題の「交通機関が不便」「人口の減少」「高齢化」「働く場所が少ない」は、へき地に共通している内容であると感じた。班活動では、「ピラミッドチャート」を思考ツールとして活用し、班の話し合いで、ピラミッドの頂上に位置付けられた考えが、最も重要な考えとなった。この思考ツールは、話し合いや学び合いに有効であると思った。各班の意見の集約後、全体で検討し、「住もうとする人が増えるための方法」がまとめられた。授業を通して、故郷をよく知ることが故郷への愛着につながると感じた。

小中の連携では、小中の授業開始時刻を合わせ、「外国語活動」「音楽」「家庭科」等を中学校からの乗り入れ授業で行っていた。毎日、小中合同で職員朝会を行うことによって、共通理解を図り、小中のよさを生かしつつ、小中一貫校としての工夫を行っていて、大変参考となった。

資 料

I 平成28年度 へき地学校資料

〈1〉 級別へき地学校数

〈() 内は、内数で休校中の学校である。〉

平成28. 5. 1 現在

校種別	級別								A 計 分校	B 県全体 分校	A —— B
	県準	特地	国準	1級	2級	3級	4級				
小学校	6	3	3	6	1	1(1)	0	20 1(1)	312 3(1)	6.4%	
中学校	4	2	2	4	2	1(1)	0	15 1(1)	162 2(1)	9.3%	
計	10	5	5	10	3	2(2)	0	35 2(2)	474 5(2)	7.4%	

〈2〉 級別へき地本校分校別学校数

〈() 内は、内数で休校中の学校である。〉

平成28. 5. 1 現在

校種別	級別	級別								小計	合計
		県準	特地	国準	1級	2級	3級	4級			
小学校	本校	6	3	3	6	1	0	0	19	20	
	分校	0	0	0	0	0	1(1)	0	1(1)		(1)
中学校	本校	4	2	2	4	2	0	0	14	15	
	分校	0	0	0	0	0	1(1)	0	1(1)		(1)

〈3〉 級別へき地学校児童数

平成28. 5. 1 現在

校種別	級別								計 (A)	県全体 (B)	A —— B
	県準	特地	国準	1級	2級	3級	4級				
小学校	647	651	213	276	53	0	0	1,840	102,642	1.8%	
中学校	282	174	364	151	52	0	0	1,023	54,577	1.9%	
計	929	825	577	427	105	0	0	2,863	157,219	1.8%	

〈4〉郡市別へき地学校数一覧

() 内は、内数で休校中の学校である。

平成28. 5. 1 現在

No.	郡市	学校数			内 訳							合 計
		本校	分校	計	文 部 科 学 省 指 定					県 準		
					4	3	2	1	準		特	
1	前 橋	小	1(1)	1(1)		1(1)						1(1)
		中	1(1)	1(1)		1(1)						1(1)
2	渋 川	1		1							1	1
3	高 崎	2		2					2			2
		1		1							1	1
4	安 中	1		1							1	1
5	多 野	2		2			1	1				2
		2		2			2					2
6	甘 楽	1		1							1	1
7	吾 妻	9		9				3	1	2	3	9
		5		5				2	1	1	1	5
8	沼 田	1		1				1	1			1
		2		2				1			1	2
9	利 根	3		3				1		1	1	3
		2		2				1	1			2
総	小 計	19	1(1)	20(1)	0	1(1)	1	6	3	3	6	20(1)
		14	1(1)	15(1)	0	1(1)	2	4	2	2	4	15(1)
計	計	33	2(2)	35(2)	0	2(2)	3	10	5	5	10	35(2)

〈5〉複式学級の郡市別、編制別、学級一覧(小学校のみ)

平成28. 5. 1 現在

郡市	学年								学級数計	学校数
	1・2年	2・3年	3・4年	4・5年	5・6年	3・4・5年	4・5・6年			
渋川市	1	0	0	0	0	0	0	1	1	
高崎市	0	0	1	0	0	0	0	1	1	
多野郡	0	1	1	0	0	0	0	2	2	
吾妻郡	1	1	1	0	0	0	0	3	3	
沼田市	0	0	1	0	0	0	0	1	1	
利根郡	0	0	1	0	1	0	0	2	1	
計	2	2	5	0	1	0	0	10	9	

〈6〉 級別へき地学校児童・生徒数の推移(小・中学校別)

年度	県 準		特 地		国 準		1 級		2 級		3 級		4 級		計 (A)		県全体(B)		(A)／(B)(%)	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
55	6,664	2,983	654	329	981	326	1,255	299	52	35	14	0	0	0	9,620	3,972	188,039	79,196	5.1	5.0
56	6,751	3,009	629	310	928	198	1,184	183	47	24	11	0	0	0	9,370	3,724	190,882	83,125	4.9	4.5
57	6,559	3,038	603	317	870	221	1,141	302	46	26	11	0	0	0	9,230	3,904	191,613	89,121	4.8	4.4
58	6,377	2,945	598	318	958	200	1,109	294	45	18	3	0	0	0	9,007	3,775	190,368	89,857	4.7	4.2
59	6,160	2,935	578	311	863	205	1,051	279	51	13	4	0	0	0	8,708	3,743	186,953	92,462	4.6	4.0
60	5,808	2,958	570	320	843	196	982	284	47	15	4	0	0	0	8,254	3,773	181,535	95,924	4.5	3.9
61	5,623	2,897	575	284	756	206	898	272	50	17	1	0	0	0	7,903	3,676	174,525	98,645	4.5	3.7
62	5,433	2,776	536	265	723	215	852	267	48	19	1	0	0	0	7,593	3,542	167,356	98,603	4.5	3.6
63	5,308	2,679	664	248	662	224	715	202	46	16	2	0	0	0	7,397	3,369	161,507	95,748	4.6	3.5
平元	5,185	2,497	652	238	629	210	686	199	48	14	1	0	0	0	7,201	3,158	156,680	91,502	4.6	3.5
平2	2,328	783	1,140	783	1,518	421	1,609	816	110	19	11	9	1	1	6,717	2,831	152,668	87,619	4.4	3.2
平3	2,252	766	1,142	813	1,486	391	1,597	799	29	83	14	8	1	1	6,521	2,860	149,153	85,001	4.3	3.3
平4	2,168	733	1,140	782	1,422	390	1,538	813	23	77	11	7	7	6	6,302	2,802	145,739	82,396	4.3	3.4
平5	2,110	680	1,110	803	1,356	407	1,506	1,186	18	71	10	5	5	6	6,110	3,152	142,339	79,203	4.3	4.0
平6	2,047	614	1,097	796	1,293	407	1,448	751	13	72	5	9	9	5	5,903	2,649	139,346	76,265	4.2	3.5
平7	1,977	589	1,065	803	1,242	375	1,414	726	10	68	12	8	8	5	5,720	2,569	136,361	74,105	4.2	3.5
平8	1,425	339	1,582	1,013	1,098	369	1,283	710	97	58	2	8	8	8	5,487	2,497	132,149	73,180	4.2	3.4
平9	1,334	314	1,503	1,010	1,117	364	1,203	712	80	69	1	3	3	3	5,238	2,472	128,340	72,283	4.1	3.4
平10	1,298	302	1,469	940	1,049	346	1,128	703	76	58	0	0	0	0	5,020	2,349	125,648	70,481	4.0	3.3
平11	1,222	292	1,398	921	995	329	1,096	713	78	58	0	0	0	0	4,789	2,313	123,443	67,831	3.9	3.4
平12	1,160	285	1,350	858	953	336	1,044	692	77	47	0	0	0	0	4,584	2,218	121,396	65,681	3.8	3.4
平13	1,042	312	1,318	840	920	333	999	682	64	44	0	0	0	0	4,343	2,211	120,264	64,305	3.6	3.4
平14	1,132	476	932	475	1,148	325	794	644	4	41	0	0	0	0	4,010	1,961	119,455	63,335	3.4	3.1
平15	1,114	474	1,039	581	951	288	768	613	0	43	0	0	0	0	3,872	1,999	119,760	60,356	3.2	3.3
平16	1,090	231	809	535	1,116	243	698	563	0	43	0	0	0	0	3,713	1,572	119,273	58,629	3.1	2.7
平17	1,093	353	774	398	1,033	217	665	567	0	35	0	0	0	0	3,565	1,570	118,877	58,272	3.0	2.7
平18	1,086	342	731	401	1,019	205	620	554	0	39	0	0	0	0	3,456	1,541	118,536	58,059	2.9	2.6
平19	1,020	341	708	415	952	193	584	567	0	33	0	0	0	0	3,264	1,549	117,423	58,034	2.8	2.7
平20	921	316	647	407	887	191	531	516	0	32	0	0	0	0	2,986	1,462	117,196	57,621	2.5	2.5
平21	863	307	628	392	819	183	534	499	0	29	0	0	0	0	2,844	1,410	115,679	58,195	2.5	2.4
平22	1,380	636	592	312	301	124	473	384	137	62	0	0	0	0	2,883	1,518	114,650	57,508	2.5	2.6
平23	1,233	563	568	356	403	118	440	370	134	65	0	0	0	0	2,778	1,472	112,674	57,383	2.5	2.6
平24	1,107	530	534	336	346	16	433	449	125	58	0	0	0	0	2,545	1,389	110,375	56,626	2.3	2.5
平25	1,095	521	421	337	323	23	421	421	123	57	0	0	0	0	2,383	1,359	108,395	56,228	2.2	2.4
平26	904	421	405	313	420	34	391	421	126	49	0	0	0	0	2,246	1,238	106,219	55,987	2.1	2.2
平27	715	332	515	282	407	40	296	378	54	52	0	0	0	0	1,987	1,084	104,539	55,301	1.9	2.0
平28	647	282	651	174	213	364	276	151	53	52	0	0	0	0	1,840	1,023	102,642	54,577	1.8	1.9

II 平成28年度 群馬県へき地教育振興会役員

平成 29. 1. 15 現在

会 長 星野巳喜雄（沼田）

副会長 田村 利男（多野：神流町長） 小林 靖能（吾妻：吾妻郡町村教育委員会
千明 金造（利根：片品村長） 連絡協議会会長）
理 事 佐藤 博之（前橋：前橋市教育長） 後藤 晃（渋川：渋川市教育長）
飯野 眞幸（高崎：高崎市教育長） 桑原 幸正（安中：安中市教育長）
山田 孝行（多野：神流町教育長） 碓井 良一（甘楽：南牧村教育長）
小林 靖能（吾妻：吾妻郡町村教育委員会
連絡協議会会長） 星野巳喜雄（沼田）
千明 金造（利根：片品村長）

評議員

郡 市	町 村	評 議 員
前 橋 市		佐 藤 博 之 (教育長)
渋 川 市		後 藤 晃 (教育長)
高 崎 市		飯 野 眞 幸 (教育長)
安 中 市		桑 原 幸 正 (教育長)
多 野 郡	上 野 村	黒 澤 右 京 (教育長)
	神 流 町	山 田 孝 行 (教育長)
甘 楽 郡	南 牧 村	碓 井 良 一 (教育長)
吾 妻 郡	中 之 条 町	宮 崎 一 (教育長)
	長 野 原 町	市 村 隆 宏 (教育長)
	嬭 恋 村	黒 岩 優 行 (教育長)
	草 津 町	中 澤 隆 (教育長)
	高 山 村	高 橋 直 幸 (教育長)
	東 吾 妻 町	小 林 靖 能 (教育長)
沼 田 市		大 竹 孝 夫 (教育長)
利 根 郡	片 品 村	星 野 準 一 (教育長)
	昭 和 村	吉 澤 博 通 (教育長)
	み な か み 町	増 田 郁 夫 (教育長)

監 事 市 村 隆 宏（吾妻：長野原町教育長） 星 野 準 一（利根：片品村教育長）

平成28年度 へき地教育振興会事務局及び郡市町村事務担当者・担当指導主事 事務局 書記・会計 柳幸真・武川光

市町村	連 絡 先	事務担当者	へき地担当指導主事
前 橋 市	前橋市教育委員会	岸 泰 史	水 沼 直 子 (中部教育事務所)
渋 川 市	渋川市教育委員会	高 橋 充	
高 崎 市	高崎市教育委員会	塚 越 英 男	
安 中 市	安中市教育委員会	城 田 敬 子	町 田 浩 一 (西部教育事務所)
上 野 村	上野村教育委員会	今 井 久 司	
神 流 町	神流町教育委員会	齋 藤 朋 美	
南 牧 村	南牧村教育委員会	小 池 悦 子	小 林 晃 男 (吾妻教育事務所)
中 之 条 町	中之条町教育委員会	島 村 弘 志	
長 野 原 町	長野原町教育委員会	佐 藤 忍	
嬭 恋 村	嬭恋村教育委員会	滝 沢 勇 司	
草 津 町	草津町教育委員会	富 岡 弥 生	
高 山 村	高山村教育委員会	平 形 英 俊	
東 吾 妻 町	東吾妻町教育委員会	水 出 智 明	永 島 芳 信 (利根教育事務所)
沼 田 市	沼田市教育委員会	林 武 史	
片 品 村	片品村教育委員会	角 田 弘 明	
昭 和 村	昭和村教育委員会	加 藤 繁 範	
み な か み 町	みなかみ町教育委員会	小 倉 正 人	

Ⅲ 平成28年度 群馬県へき地教育研究連盟役員

役員

- ・理事長 黒澤 守 (多野：神流町立万場小学校)
- ・副理事長 埴田 栄一 (吾妻：長野原町立応桑小学校)
堀江 英也 (利根：みなかみ町立藤原小中学校)
- ・常任理事 黒崎 高行 (高崎：高崎市立倉渕中学校)
金子 健司 (吾妻：嬭恋村立西部小学校)
今井 浩 (沼田：沼田市立利根中学校)
- ・事務局長 飯塚 真琴 (甘楽：南牧村立南牧中学校)
- ・会計部長 黒澤 栄生子 (多野：上野村立上野小学校)
- ・理事

ブロック 郡市	氏名	勤務校	勤務校所在地 (電話番号)	備考
A 前橋・高崎・安中・多野・甘楽	黒澤 守	神流町立万場小学校	多野郡神流町万場 84-2 (0274-57-2320)	理事長
	黒崎 高行	高崎市立倉渕中学校	高崎市倉渕町岩氷215-1 (027-378-3214)	調査部長
	飯塚 真琴	南牧村立南牧中学校	甘楽郡南牧村大字大日向 1045 (0274-87-2501)	事務局長
	畑 光代	安中市立松井田北中学校	安中市松井田町上増田 3602-1 (027-393-1520)	
	黒澤 栄生子	上野村立上野小学校	多野郡上野村大字新羽 32 (0274-59-2004)	会計部長
B 吾妻	埴田 栄一	長野原町立応桑小学校	吾妻郡長野原町大字応桑 20-2 (0279-85-2002)	副理事長
	金子 健司	嬭恋村立西部小学校	吾妻郡嬭恋村大字大前 805-1 (0279-96-0013)	総務部長
	中沢 博	中之条町立六合中学校	吾妻郡中之条町大字生須 543-1 (0279-95-3572)	

B 吾 妻	柴崎 弘光	草津町立草津小学校	吾妻郡草津町大字草津3-1 (0279-88-2156)	
	中沢 雅紀	東吾妻町立坂上小学校	吾妻郡東吾妻町大字本宿 401-1 (0279-69-2005)	
C 利 根 ・ 沼 田 ・ 渋 川	堀江 英也	みなかみ町立藤原小中学校	利根郡みなかみ町藤原 3491 (0278-75-2103)	副理事長
	今井 浩	沼田市立利根中学校	沼田市利根町追貝 334 (0278-56-2044)	研究部長
	小林 彦名	沼田市立多那小中学校	沼田市利根町多那 732 (0278-53-2698)	
	高桑 実	片品村立片品中学校	利根郡片品村鎌田 4480 (0278-58-2019)	
	荒木富美子	昭和村立大河原小学校	利根郡昭和村大字糸井 5455-354 (0278-24-7166)	
「板木」 実務 担当	畑 光代	安中市立松井田北中学校	安中市松井田町上増田 3602-1 (027-393-1520)	

IV 平成28年度 群馬県へき地教育センター指導員

センター名	氏 名	勤 務 先	勤務校所在地（電話番号）
吾 妻	小野塚 則幸	長野原町立第一小学校内	〒377-1309 吾妻郡長野原町大字林1394-5 (0279-82-2145)
利 根	笛田 敏行	利根教育事務所内	〒378-0031 沼田市薄根町4412 (0278-23-0165)

V 平成28年度へき地教育功労者

No.	氏 名	該当する内規・功績の概要
1	とみざわ ただし 富沢 正 中之条町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成28年3月に中之条町立六合小学校校長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に17年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
2	くろいわ ひろこ 黒岩 祐子 中之条町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成28年3月に中之条町立六合中学校校長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に33年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
3	いちむら かずみ 市村 一美 長野原町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成28年3月に長野原町立西中学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に24年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
4	うつみ みのる 内海 稔 長野原町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成28年3月に長野原町立西中学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に17年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
5	いしい やすなり 石井 靖業 嬭恋村教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成28年3月に嬭恋村立西部小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に20年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
6	いしい みえ 石井 美枝 嬭恋村教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成28年3月に嬭恋村立東部小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に17年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
7	すか のりえ 須賀 紀江 草津町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成28年3月に草津町立草津小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に32年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
8	すがや れいじ 菅谷 礼示 高山村教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成28年3月に高山村立高山中学校校長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に17年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
9	まちだ かづえ 町田 和恵 高山村教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成28年3月に高山村立高山中学校総括補佐事務長として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に15年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
10	もろおか ひろみ 諸岡 裕美 高山村教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成28年3月に高山村立高山小学校主幹栄養専門員として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に16年6か月間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
11	けんもち まさよし 剣持 雅好 東吾妻町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成28年3月に東吾妻町立東吾妻中学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に30年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
12	いづか ひとし 飯塚 均 東吾妻町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成28年3月に東吾妻町立太田小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に27年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
13	からさわ ひろこ 唐澤 裕子 東吾妻町教育委員会推薦	2 (1) (ア) 平成28年3月に東吾妻町立坂上小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に22年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。

No.	氏 名	該当する内規・功績の概要
14	くわばら まさこ 桑原 政子 東吾妻町教育委員会推薦	2(1)(ア) 平成28年3月に東吾妻町立原町小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に19年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
15	くわばら みなつぐ 桑原 三七次 東吾妻町教育委員会推薦	2(1)(ア) 平成28年3月に東吾妻町立東吾妻中学校校長として退職するまで、吾妻・高崎管内のへき地学校に16年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
16	ふくはら ひろし 福原 洋 東吾妻町教育委員会推薦	2(1)(ア) 平成28年3月に東吾妻町立東小学校教諭として退職するまで、吾妻郡内のへき地学校に15年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
17	ほしの 星野 かをる 沼田市教育委員会推薦	2(1)(ア) 平成28年3月に沼田市立利根東小学校教諭として退職するまで、利根沼田地区のへき地学校に19年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
18	なかむら じゅんいち 中村 純一 沼田市教育委員会推薦	2(1)(ア) 平成28年3月に沼田市立利根西小学校教諭として退職するまで、利根沼田地区のへき地学校に19年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。
19	ちぎら よしお 千明 芳夫 片品村教育委員会推薦	2(1)(ア) 平成28年3月に片品村立片品中学校統括補佐事務長として退職するまで、利根郡内のへき地学校に24年間にわたり勤務し、へき地教育に尽くした。

あ と が き

群馬県へき地教育資料「板木」第65集の発刊にあたり、ご指導下さいました群馬県教育委員会の皆様をはじめ、ご協力いただきました関係各位に心より感謝申し上げます。

「板木」は、昭和27年に群馬県へき地教育の資料集として第1号が創刊され、以来途切れることなく刊行されてきました。この間、多くの方々のご努力により、群馬県におけるへき地教育の歩みを示す貴重な資料として活用され、その価値を確かなものとしています。

今年度は、第65回群馬県へき地教育研究大会が沼田市立多那小中学校で開催されました。午前は、全体会と班別研究協議、午後からは、公開授業及び授業研究会が行われ、へき地教育についての考えを深める貴重な機会となりました。そこで紹介されたへき地のよさを生かした学校経営や公開授業とともに、学習指導・生徒指導の実践、第65回全国へき地教育研究大会（青森大会）の報告等もこの「板木」に掲載させていただきました。各校の教育実践の参考にしていただければ幸いです。へき地教育の推進を図っていく一方で、児童生徒数の減少により、へき地校の状況は厳しくなっていますが、みんなで力を合わせ、へき地教育を盛り上げていきたいものです。

今年度も、へき地教育に携わる多くの方々から、原稿執筆や編集等のご協力をいただき、無事にへき地教育の記録を残すことができました。心からお礼申し上げます。完成した「板木」第65集が、今後のへき地教育推進の資料としてより多くの方々に活用されることを願っております。

なお、「板木」作成に携わった編集委員は、以下の通りです。

群馬県教育委員会事務局	三好 賢治（義務教育課長）
	春田 晋（義務教育課 教科指導係長）
	柳幸 真（義務教育課 教科指導係 指導主事）
	武川 光（義務教育課 教科指導係 指導主事 板木担当）
群馬県へき地教育研究連盟	飯出 哲夫（県へき連 顧問）
	黒澤 守（県へき連 常任理事・理事長）
	埴田 栄一（県へき連 常任理事・副理事長）
	堀江 英也（県へき連 常任理事・副理事長・総務部）
	飯塚 真琴（県へき連 常任理事・事務局長・総務部）
	金子 健司（県へき連 常任理事・総務部長）
	今井 浩（県へき連 常任理事・研究部長）
	黒崎 高行（県へき連 常任理事・調査部長）
	黒澤栄生子（県へき連 常任理事・会計部長・総務部）
	中沢 博（県へき連 理事・研究部・広報担当）
	柴崎 弘光（県へき連 理事・総務部・新聞担当）
	中沢 雅紀（県へき連 理事・監査・調査部）
	小林 彦名（県へき連 理事・研究部）
	高桑 実（県へき連 理事・監査・調査部）
	荒木富美子（県へき連 理事・調査部・図書担当）
	畑 光代（県へき連 理事・研究部・板木担当）